

令和6年度

全国学力・学習状況調査結果について

令和6年7月

山口県教育庁義務教育課

目 次

1	調査の概要	—————	P	1
2	教科に関する結果	—————	P	2
(1)	全体の結果	P	2
(2)	各教科の結果	P	2
	領域別平均正答率	P	4
	正答数分布	P	6
	設問別正答率	P	8
(3)	具体的な問題と解答状況	P	12
3	質問調査の結果	—————	P	28
(1)	児童生徒質問	P	28
(2)	学校質問	P	40
4	学力向上に向けた今後の取組	—————	P	50

1 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 令和6年4月18日(木)

(3) 調査の方法 悉皆調査

(4) 調査を実施した学校数・児童生徒数

学 年	学 校 数	児 童 生 徒 数
小学校第6学年	公立小学校 260校	児 童 10,019人
	特別支援学校 2校	
	計 262校	
中学校第3学年	公立中学校 136校	生 徒 9,697人
	中等教育学校 1校	
	特別支援学校 4校	
	計 141校	

(5) 調査の内容

① 教科に関する調査(小学校…国語、算数 中学校…国語、数学)

・調査問題では、下記1)と2)を一体的に問う。

- 1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- 2) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

ア 児童生徒に対する調査(児童生徒質問)

【小学校…63項目 中学校…65項目】

イ 学校に対する調査(学校質問)

【小学校…76項目 中学校…80項目】

2 教科に関する結果

(1) 全体の結果

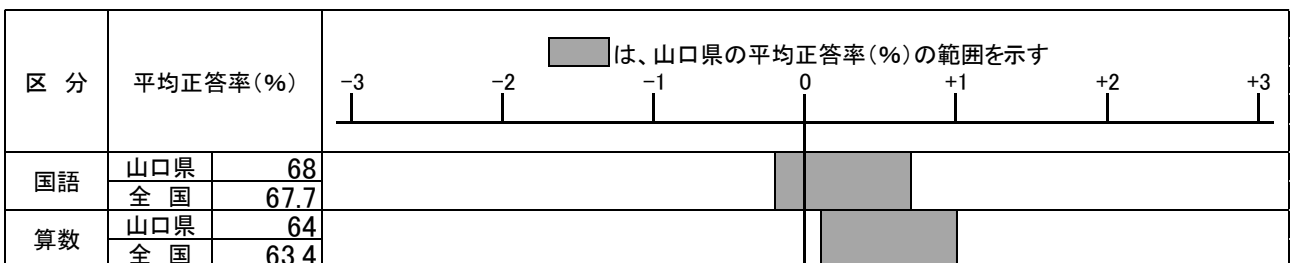
- 小学校では、国語は全国平均と同程度、算数は全国平均を上回るという結果であった。
○中学校では、国語は全国平均と同程度、数学は全国平均を下回るという結果であった。

(2) ① 各教科の結果（本県と全国の平均正答数、平均正答率の比較）

※ 平成 29 年度から、都道府県等における各教科の平均正答率は整数値で提供されているため、全国平均との差を範囲で示している。

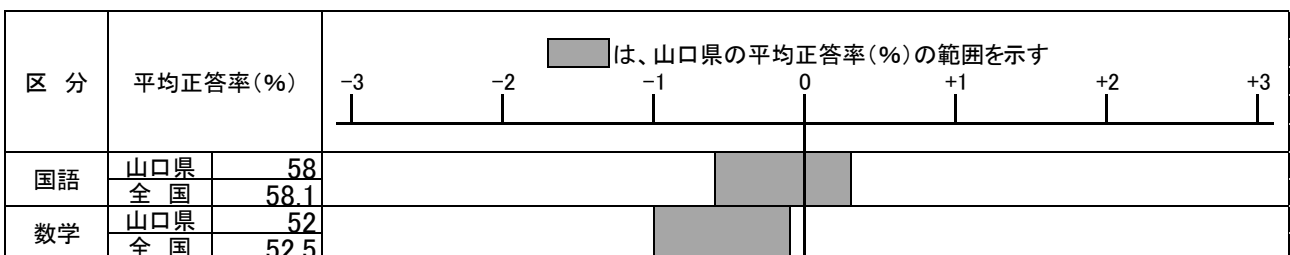
【小学校】

	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.6／14	9.5／14	68	67.7
算 数	10.2／16	10.1／16	64	63.4



【中学校】

	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	8.7／15	8.7／15	58	58.1
数 学	8.4／16	8.4／16	52	52.5



〔参考〕過去の調査での平均正答数と平均正答率

○令和5年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.4／14	9.4／14	67	67.2
算 数	9.8／16	10.0／16	61	62.5

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	10.5／15	10.5／15	70	69.8
数 学	7.7／15	7.6／15	52	51.0
英 語	7.4／17	7.7／17	44	45.6

○令和4年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1／14	9.2／14	65	65.6
算 数	10.0／16	10.1／16	63	63.2
理 科	10.9／17	10.8／17	64	63.3

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.8／14	9.7／14	70	69.0
数 学	7.2／16	7.2／16	52	51.4
理 科	10.4／21	10.4／21	49	49.3

○令和3年度

小学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.0／14	9.1／14	64	64.7
算 数	11.1／16	11.2／16	69	70.2

中学校	平均正答数／設問数		平均正答率 (%)	
	山口県	全 国	山口県	全 国
国 語	9.1／14	9.0／14	65	64.6
数 学	9.2／16	9.1／16	58	57.2

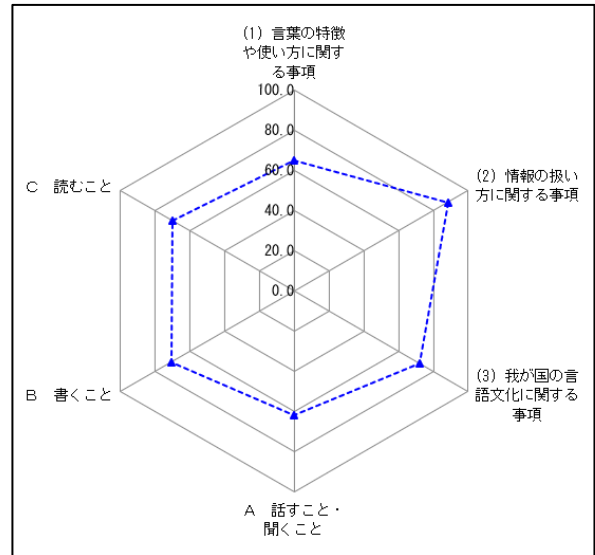
※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休業等の影響により中止

(2) -② 領域別平均正答率

【小学校 国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」については全国平均を上回った。「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」については全国平均を下回った。

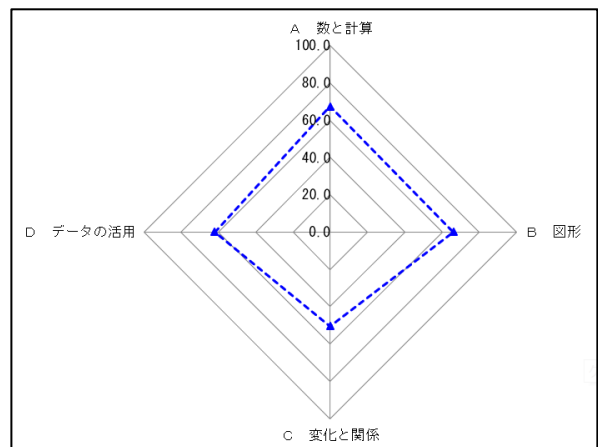
全体	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
言葉の特徴や使い方に関する事項	4	64.8	64.4	0.4
情報の扱い方に関する事項	1	88.3	86.9	1.4
我が国の言語文化に関する事項	1	72.3	74.6	-2.3
話すこと・聞くこと	3	61.7	59.8	1.9
書くこと	2	70.4	68.4	2.0
読むこと	3	70.0	70.7	-0.7



【小学校 算数】

「数と計算」「データの活用」については全国平均を上回った。「図形」「変化と関係」については全国平均を下回った。

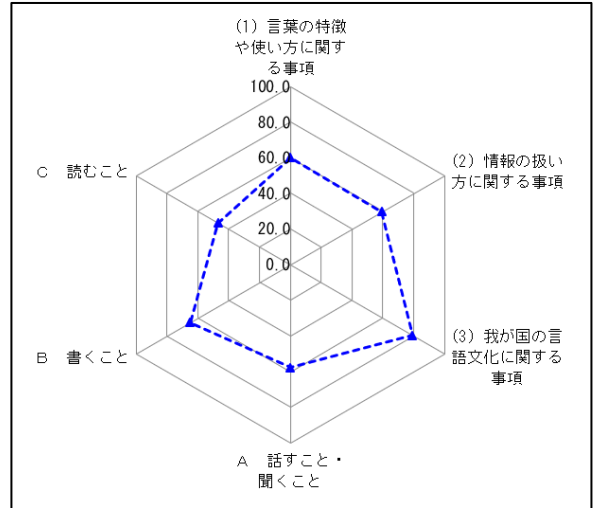
全体	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
数と計算	6	67.2	66.0	1.2
図形	4	66.1	66.3	-0.2
測定	0			
変化と関係	3	50.5	51.7	-1.2
データの活用	4	62.0	61.8	0.2



【中学校 国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」については全国平均を上回った。「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については全国平均を下回った。

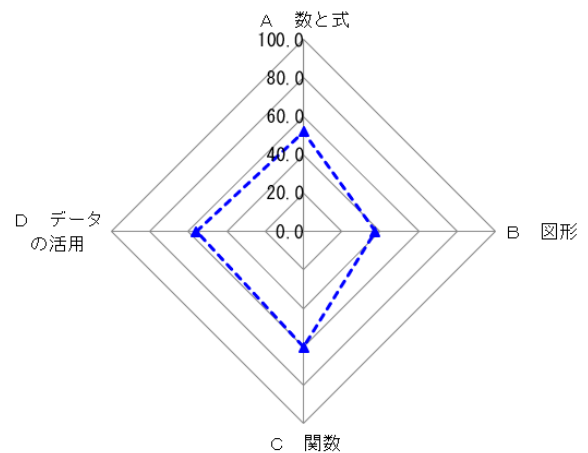
	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
全体	15			
言葉の特徴や使い方に関する事項	3	60.0	59.2	0.8
情報の扱い方に関する事項	2	59.4	59.6	-0.2
我が国の言語文化に関する事項	1	79.4	75.6	3.8
話すこと・聞くこと	3	57.6	58.8	-1.2
書くこと	2	64.9	65.3	-0.4
読むこと	4	46.7	47.9	-1.2



【中学校 数学】

「数と式」「データの活用」については、全国平均を上回った。「図形」「関数」については、全国平均を下回った。

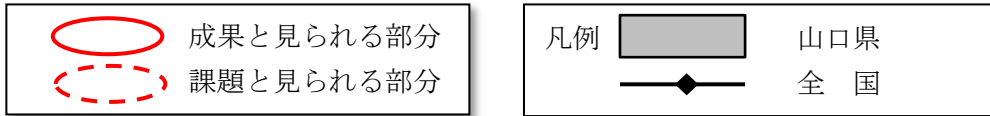
	問題数	平均正答率(%)		全国との差
		山口県	全国	
全体	16			
数と式	5	51.9	51.1	0.8
図形	3	37.4	40.3	-2.9
関数	4	60.3	60.7	-0.4
データの活用	4	55.9	55.5	0.4



(2) -③ 正答数分布

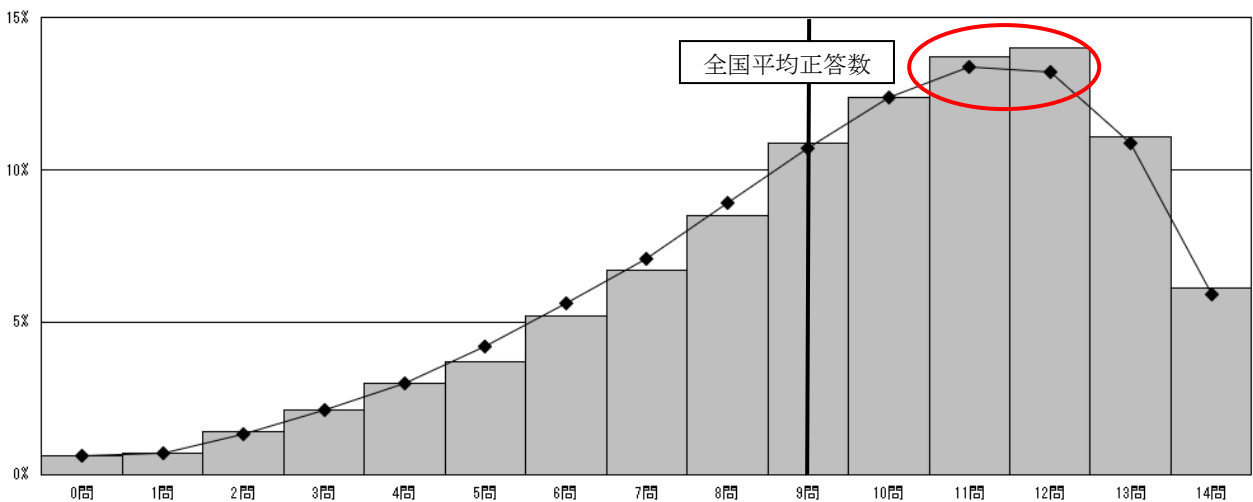
[グラフについて]

横軸は児童生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童生徒の割合 (%) を示している。



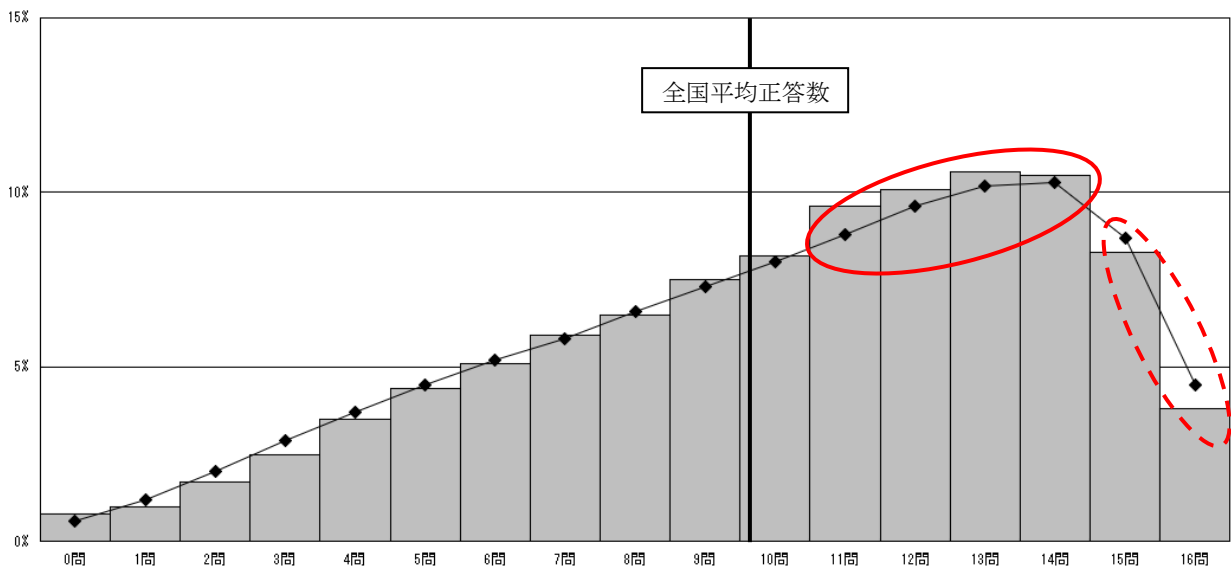
【小学校 国語】(平均正答率 山口県 68%、全国 67.7%)

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、正答数が11～12問の児童の割合が高い。



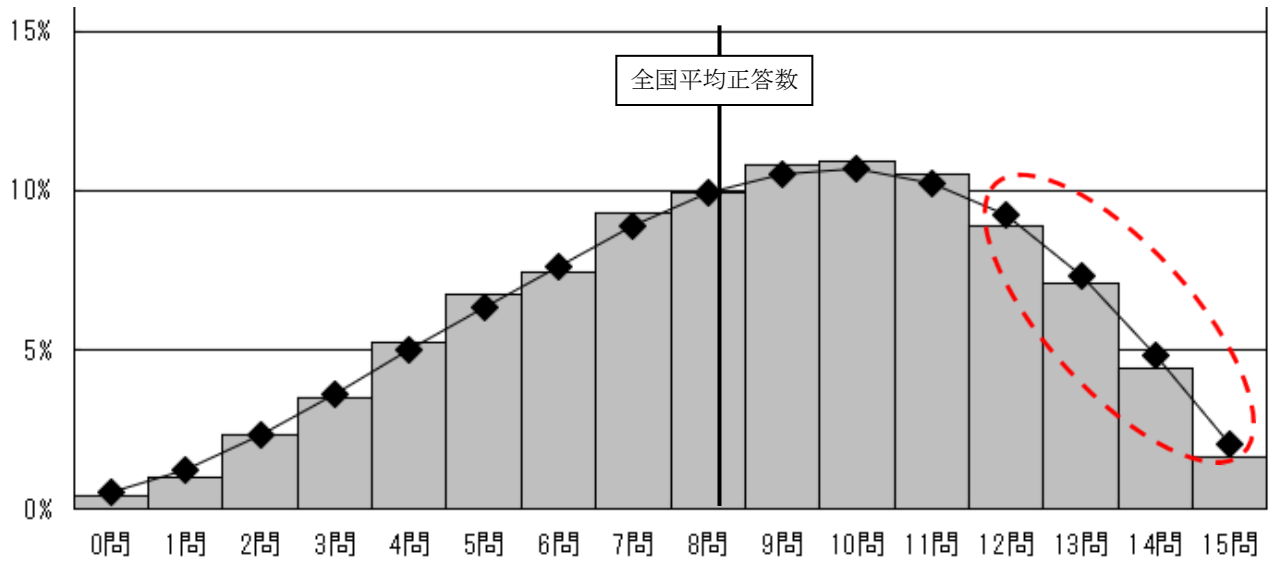
【小学校 算数】(平均正答率 山口県 64%、全国 63.4%)

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、正答数が11～14問の児童の割合が高い。正答数が15～16問の児童の割合が低い。



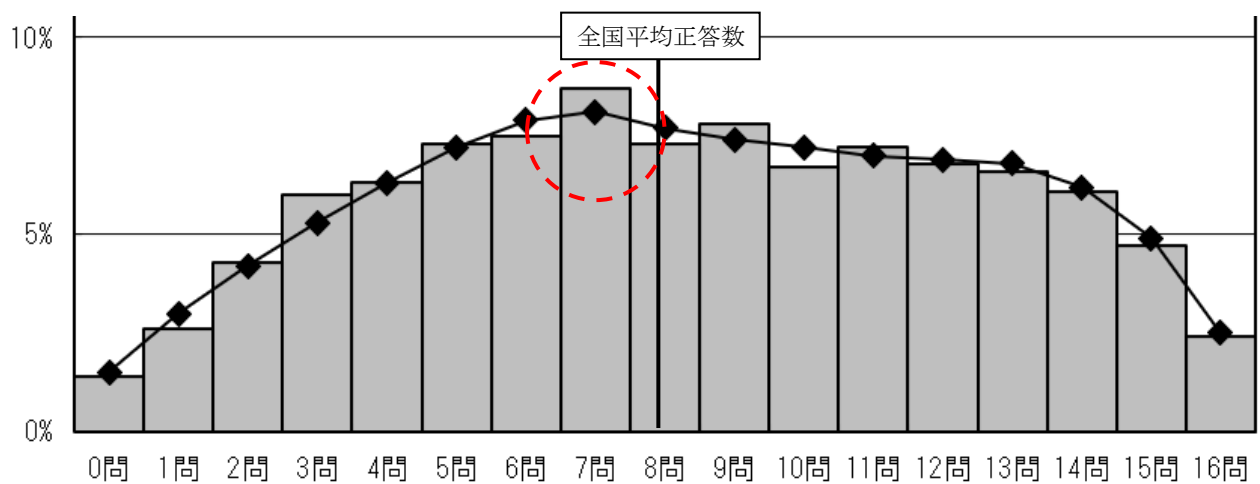
【中学校 国語】（平均正答率 山口県 58%、全国 58.1%）

全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ、正答数が12～15問の生徒の割合が低い。



【中学校 数学】（平均正答率 山口県 52%、全国 52.5%）

全国と同様の分布状況にあるが、全国平均より低い正答数7問の生徒の割合が高い。



(2) - ④ 設問別正答率

小学校 国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)	
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと											
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる					5・6ア				○	○				63.7	62.5	0.7	0.7
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる	5・6イ								○	○				77.5	75.9	0.7	0.6
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる					5・6ウ				○	○				55.6	52.9	0.7	0.7
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したのとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる					5・6ア				○	○				65.8	63.8	0.9	0.9
2一(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					5・6ア				○	○				81.1	80.3	0.8	0.9
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したのとして、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6イ								○	○				88.3	86.9	0.8	0.9
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6ウ				○	○				59.7	56.6	3.8	4.9
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ								○	○				42.2	43.4	11.1	13.2
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ								○	○				77.3	76.0	6.1	8.0
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	3・4カ								○	○				62.4	62.3	2.4	2.0
3二(1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話しかけているか考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる					5・6イ				○	○				67.0	66.9	3.0	2.6
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したのとして、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる					5・6エ				○	○				71.8	72.5	3.3	2.9
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる					5・6エ				○	○				71.3	72.6	12.4	12.6
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる	5・6オ								○	○				72.3	74.6	9.0	7.6

小学校 算数

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)	
1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	2(2) ア(エ)						○			○			64.2	62.1	0.2	0.2
1(2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	3(7) ア(ア)						○			○			88.5	88.5	0.3	0.3
2(1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(3) イ(ア)						○			○			57.6	56.9	2.6	3.4
2(2)	除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	5(3) ア(ア)						○			○			71.1	69.1	1.1	1.3
3(1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	4(2) ア(ア) ア(ウ)						○			○			85.8	85.5	0.5	0.6
3(2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	5(1) ア(エ)						○			○			71.6	71.3	0.6	0.8
3(3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	3(1) ア(ウ) イ(ア) イ(ウ) イ(イ) イ(イ)						○			○			33.6	36.5	8.6	9.8
3(4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	5(2) ア(ア) イ(ア)						○			○			73.5	72.0	1.4	1.8
4(1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	5(9) ア(イ)						○			○			72.9	70.1	2.1	3.1
4(2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる					5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)		○			○			66.4	70.0	2.9	3.3
4(3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					5(2) ア(ア) イ(ア)		○			○			31.3	31.0	2.0	2.4
4(4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる					5(2) ア(ア)		○			○			53.6	54.1	4.0	4.6
5(1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる					5(1) ア(ア)		○			○			82.7	80.8	1.7	1.8
5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)		○			○			74.3	73.3	4.0	3.9
5(3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) イ(ア) 4(1) ア(イ)		○			○			42.0	44.0	12.6	12.6
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	2(1) イ(ア)				3(1) ア(ア)		○			○			48.9	49.3	4.8	4.0

中学校 国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
1一	話合いの中の発言について説明したものととして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1エ				○		○			63.9	63.2	0.3	0.4
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる				2ウ				○		○			66.2	68.5	3.4	3.5
1三	話合いの中の発言について説明したものととして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1ア						○			○			42.8	44.0	0.4	0.5
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1オ				○		○			42.5	44.7	8.9	9.9
2一	本文中の図の役割を説明したものととして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる						2ウ		○		○			33.6	36.3	0.4	0.5
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものととして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア						○			○			75.9	75.2	0.5	0.6
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる						2ア		○		○			64.4	64.5	0.5	0.6
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる						1ウ		○		○			40.7	42.6	9.4	8.4
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものととして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる						1ア		○		○			80.9	81.4	0.4	0.7
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものととして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	2オ						○			○			53.2	53.8	0.8	1.0
3三	漢字を書く(ひちたりた)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○			○			70.6	68.8	8.8	10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる						2ウ		○		○			48.8	49.3	14.4	15.0
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものととして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	1オ						○			○			56.1	54.9	1.8	1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる						1イ		○		○			47.9	48.3	3.2	3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものととして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる				1エ(4)			○			○			79.4	75.6	2.4	2.3

中学校 数学

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山口県(公立)	全国(公立)	山口県(公立)	全国(公立)
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○		35.8	34.8	11.2	14.3	
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	2(1) 7(2)				○			○		53.1	52.5	8.5	9.7	
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる		1(1) 7(4)			○			○		66.1	68.3	0.2	0.3	
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○		64.6	65.3	0.6	0.7	
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる				2(2) 7(4)	○			○		72.7	73.1	4.3	4.2	
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	1(1) 7(4)				○			○		90.6	90.2	2.1	2.5	
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○		37.9	35.9	23.1	23.5	
6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) 7(4)				○			○		42.4	41.8	28.8	29.6	
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる				6(1) 7(7)	○			○		72.0	74.3	5.5	5.8	
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○		27.7	25.9	28.5	29.4	
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○		51.4	48.5	0.6	0.9	
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○		83.5	83.4	0.7	0.8	
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			2(1) 7(4)		○			○		15.6	17.1	17.4	16.4	
8(3)	結衣さんがかけたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる			2(1) 7(7)		○			○		77.3	76.9	3.0	3.8	
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる			2(2) 7(4)		○			○		22.3	25.8	34.8	33.6	
9(2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる			2(2) 7(4) 7(7)		○			○		23.9	26.7	4.4	4.5	

(3) - ① 具体的な問題と解答状況 - 小学校国語 -

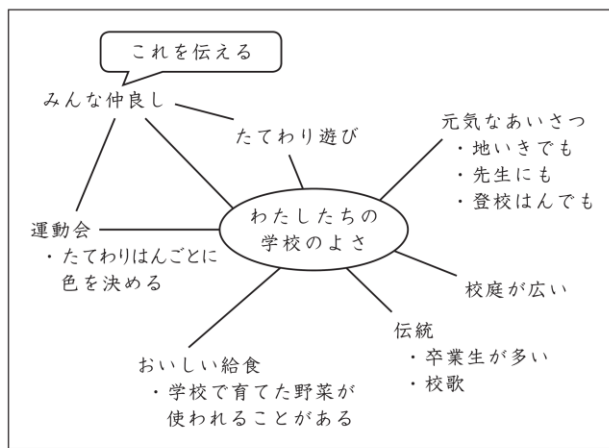
○相当数の児童ができている点

○ 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること」について、正答率が高い。

2 - (1)

- 【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】について、次の(1)と(2)の問いに答えましょう。
- (1) 高山さんは、文章に書くことを決めるために、どのよう to 考えましたか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 賛成と反対の両方の立場から考えた。
 - 2 書きやすい順番を考えた。
 - 3 他の人の考えを取り入れて考えた。
 - 4 集めた情報の共通点を考えた。

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



2 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【正答】 2 - (1) 4

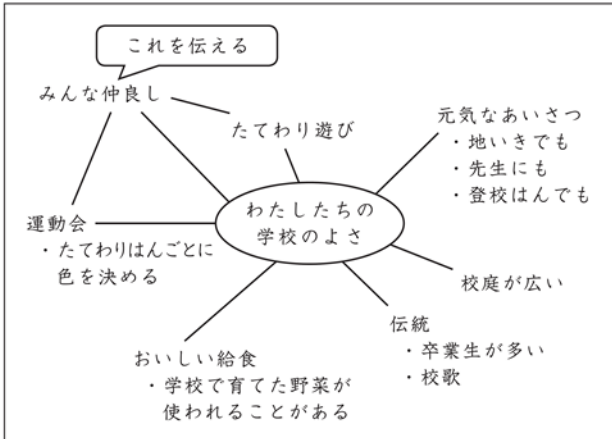
	正答率
山口県	81.1%
全 国	80.3%

○ 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」について、正答率が高い。

2 - (2)

- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる。
- 2 中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる。
- 3 似ていることがらをまとめて丸で囲んでいる。
- 4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる。
- 【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】について、次の(1)と(2)の問いに答えましょう。
- (2) 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



2 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、【高山さんのメモ】と【高山さんの考え】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましよう。

【正答】 2 - (2) 2

	正答率
山口県	88.3%
全国	86.9%

●課題が見られる点

- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」について、課題が見られる。

2 二

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイ₁なげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

二 高山さんは、次の【高山さんの文章】の
考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、
内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましよう。
に、【高山さんの取材メモ】をもとにして
に入る

〈条件〉

- 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- 【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【正答例】 2 二

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるところだと思います。

	正答率
山口県	59.7%
全国	56.6%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

たてわり遊びのよいところは、ルールをくふうするなどして、「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生がおり、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生もいました。



→【高山さんの取材メモ】から言葉や文を取り上げて、たてわり遊びのよさを書こうとしているが、それが適切に伝わる表現になっていない。

このような誤答の子どもは…

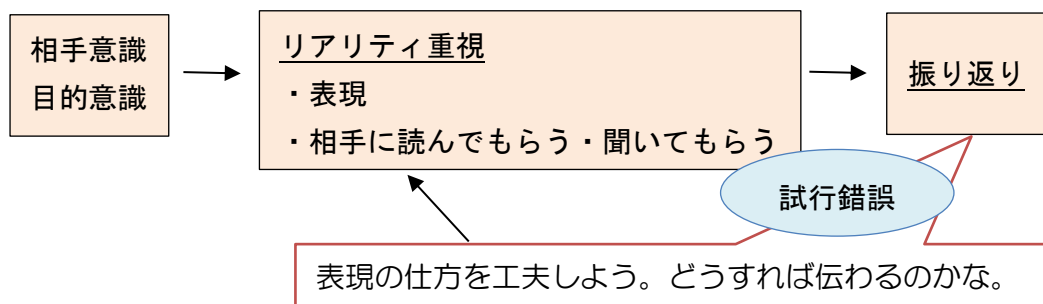
目的に応じて表現の仕方を工夫することに課題があると考えられる。

課題解決のための手立て

【授業改善の方策】

試行錯誤のある表現活動を！

表現したものを、実際に相手に読んでもらう・聞いてもらうというリアリティの重視と、表現した後の「振り返り」がポイント。表現する目的が達成できなかったときに、「表現の仕方を工夫しよう」「どうすれば、伝わるのだろう」という思いが高まり、表現力が磨かれていく。



【学校・家庭・地域の連携】

保護者の方や地域の方に、表現したものを読んでもらう・聞いてもらうことで、リアリティを重視した活動が実現できる。

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校6年 自分の考えを表現する力を伸ばすために 事実と意見 1～4

(3) -② 具体的な問題と解答状況 ー小学校算数ー

○相当数の児童ができている点

○ 「直方体の見取図について理解し、かくこと」について、正答率が高い。

3 (1)

3

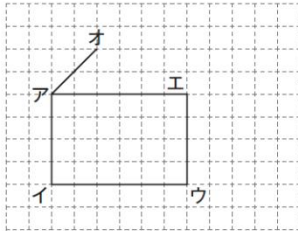
ことねさんたちは、いろいろな立体について学習してきたことをふり返っています。

次に、下の 1 から 4 のように、点力の位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。

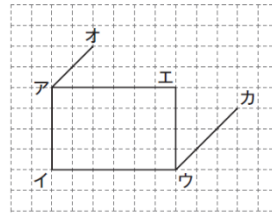
下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

(1) 直方体の見取図を、方眼紙にかいています。

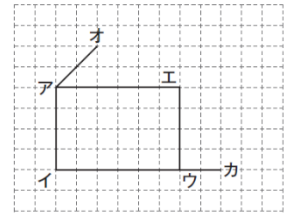
まず、下のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



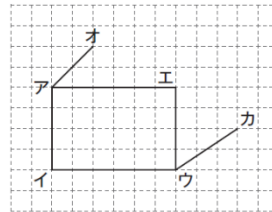
1



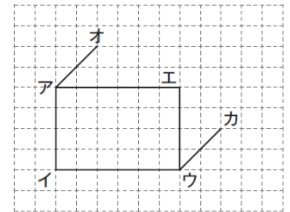
2



3



4



【正答】 3 (1) 4

	正答率
山口県	85.8%
全国	85.5%

○ 「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること」について、正答率が高い。

5 (1)

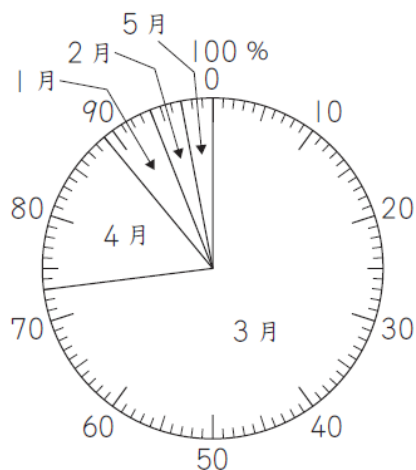
5

こうたさんは、桜の開花日について興味をもちました。桜の開花日とは、各地で基準となっている桜の木で5～6輪りん以上の花が開いた状態となった最初の日のことです。

(1) 全国各地の観測地のデータを調べたところ、地域ちいきによって桜の開花日がちがうことがわかりました。

下の円グラフは、2023年の開花日について、月別に整理し、その割合わりあいを表したものです。

開花日の月別の割合 (2023年)



「4月」の割合は、全体の何%ですか。答えを書きましょう。

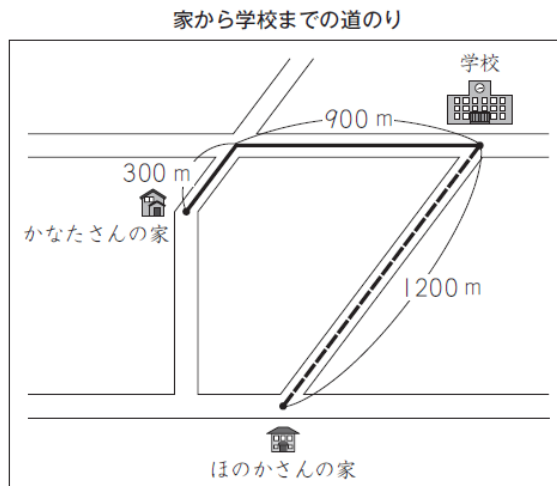
【正答】 5 (1) 16

	正答率
山口県	82.7%
全国	80.8%

●課題が見られる点

- 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」について、課題が見られる。

4 (3) (3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
 家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
 それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
 下の **1** と **2** から選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん

	正答率
山口県	31.3%
全国	31.0%

【正答例】 4 (3)

【番号】 1

【わけ】

○かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

○かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200\div 20=60$ で、分速60mです。ほのかさんの歩く速さは、 $1200\div 24=50$ で、分速50mです。だから、かなたさんのほうが速いです。

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

かなたさんの速さは、 $20 \div 1200 = 0.016$ で、ほのかさんの速さは、 $24 \div 1200 = 0.02$ になるから、ほのかさんの方が答えが大きいのでほのかさんの方が速いです。

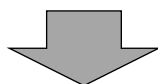


→2人の歩く速さを求めようとしているが、もとになる量の意味が捉えきれていないため、立式を誤っている。

かなたさんは $300 \div 20 = 15$ 、 $900 \div 20 = 45$ で、ほのかさんは $1200 \div 24 = 50$ でほのかさんの方が速いです。



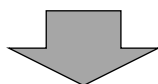
→かなたさんの事象を直線事象として捉えきれていないため、かなたさんの速さを求める式が正しくない。



このような誤答の子どもは…

事象に合わせて立式はできるものの、導いた答えについて再度事象と照らし合わせて、適切かどうかを確認することができていない。

速さを求める公式「道のり÷時間」に対応する数を当てはめているものの、用語の意味を正しく理解できていないことが考えられる。



課題解決のための手立て

【授業改善の方策】

道のりと時間の関係を基に速さを比較し、判断できるようにすることが重要である。授業においては、道のり・時間の2量の関係に着目し、複数の速さを比較する機会を設定し、どちらが速いかを判断したり、その理由を話し合ったりする活動が考えられる。日常の事象と導き出した数式の行き来を丁寧に行うことで、数式の正しさを確かめる児童を育てていきたい。

【学校・家庭・地域の連携】

速さなどの割合の学習については、課題が見られる学習内容であることから、家庭や地域とも課題を共有し、地域学校協働活動や日々の生活の中で多くの割合を具体的に活用する機会を設けることが一つの手立てとして考えられる。

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校5年 やまぐちっ子 速さ3

(3) - ③ 具体的な問題と解答状況 - 中学校国語 -

○相当数の生徒ができている点

○ 「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」について、正答率が高い。

3 -

3 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた【ノートの一部】と【物語の下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(【ノートの一部】及び【物語の下書き】の①から④は、場面の番号を表します。)

〔登場人物の設定〕

- ・「僕」……紙の辞書。語り手。
- ・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

〔もとにする体験〕

小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
 使い始めた頃、紙の辞書の引き方が難しく困った。
 ・最近はおんらいん辞書ばかり使っている。
 ・紙の辞書を久しぶりに使った。

〔物語を通して伝えたいこと〕

紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

〔各場面では伝えたい「僕」の心情〕

④ 出番のない寂しさ。
 ③ 忘れられるかもしれない不安。
 ② 久しぶりの出番で感じた喜び。
 ④ 次の出番への期待。

― 佐藤さんは、【ノートの一部】の〔もとにする体験〕に書いた情報の中から、「最近はおんらいん辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることになりました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがいより明確に伝わるようにするため。
- 2 物語の読み手に、紙の辞書よりもおんらいん辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
- 3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさがいより明確に伝わるようにするため。
- 4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しく困ったことがより明確に伝わるようにするため。

【正答】 **3** - **3**

	正答率
山口県	80.9%
全 国	81.4%

○ 「行書の特徴を理解すること」について、正答率が高い。

4 三

- 1 ㉞の部分は、楷書かいしょとは異なり点画を連続して書いている。
- 2 ㉟の部分は、楷書とは異なり点画を直線的に書いている。
- 3 ㊱の部分は、楷書と同様に終筆を止めて書いている。
- 4 ㊲の部分は、楷書と同様に点画を省略して書いている。



三 田中さんは、短歌を紹介するための資料の中に、テーマである「月と風景」を行書で書きました。次の㉞から㊲までの部分の書き方について説明したものとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

【正答】 4 三 1

	正答率
山口県	79.4%
全 国	75.6%

●課題が見られる点

- 「目的に応じて必要な情報に着目して要約すること」について、課題が見られる。

2 四

四 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約します。次のア、イから一つ選んで（どちらを選んでもかまいません。）要約しなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているかについて。
イ 筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているかについて。

本文：園池公毅「植物の形には意味がある」

【正答例】 2 四

・アを選んだ場合

葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。

・イを選んだ場合

数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。

	正答率
山口県	40.7%
全 国	42.6%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答＜アを選んだ子ども＞

筆者は、葉の形を表す言葉を二次元的（平面的）な形容と、三次元的な（厚み方向の）形容の二つのグループに分けた。



→各グループの特徴について、まとめることができていない。

このような誤答の子どもは…

関連する情報が文中にたくさんある場合に、目的に合う情報を選び、まとめることができていないことから、複数の情報を目的に応じて整理することに課題があると考えられる。

課題解決のための手立て

【授業改善の方策】

情報過多の時代を意識した取組を！

まずは、たくさんの情報の中から、自分の目的に合う情報を選ぶことができるようにしたい。教科の特性に合わせて様々な情報にふれさせること、選択した情報が自分の目的に適していたかを振り返る場面を設けることがポイント。

国語

【例】 数冊の本を使って、自分の目的に合う情報を選択していく活動。

社会

【例】 様々な資料から、自分の目的に合う情報を選択していく活動。

【学校・家庭・地域の連携】

保護者や地域の方に対する表現活動を設けることで、相手や目的を意識して多くの情報から必要な情報を選択する力を身に付けることができる。

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

小学校5・6年 やまぐちっ子DASH「読むこと」
要約の問題にチャレンジしましょう

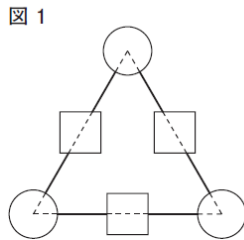


(3) -④ 具体的な問題と解答状況 -中学校数学-

○相当数の生徒ができている点

○ 「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をすること」について、正答率が高い。

- 6 (1) 6 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

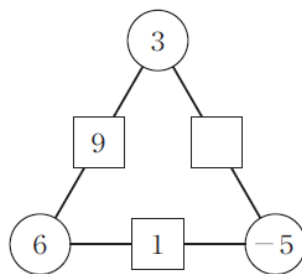


計算の例

3つの○に1、3、6を入れると
 3つの□にはそれぞれ
 $1+3$ 、 $3+6$ 、 $6+1$
 の計算結果が入る。
 だから、3つの□には4、9、7
 が入る。

図2

(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。



【正答】 6 (1) - 2

	正答率
山口県	90.6%
全国	90.2%

○ 「二つのグラフにおける y 軸との交点について、事象に即して解釈すること」について、正答率が高い。

8 (1)

8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

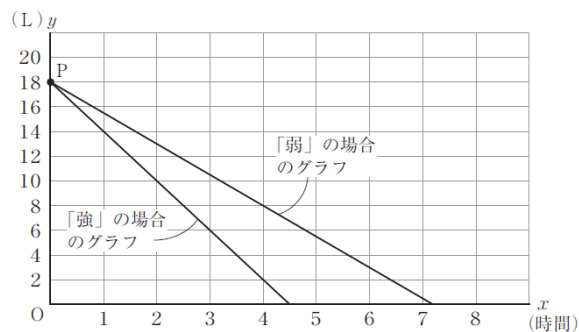
ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$
「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$



(1) ストーブの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pで y 軸と交わっています。点Pの y 座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア ストーブを使用し始めるときの灯油の残量
- イ ストーブを使用し始めるときの時間
- ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量
- エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

【正答】 8 (1) ア

	正答率
山口県	83.5%
全国	83.4%

●課題が見られる点

● 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」について、課題が見られる。

8 (2)

8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

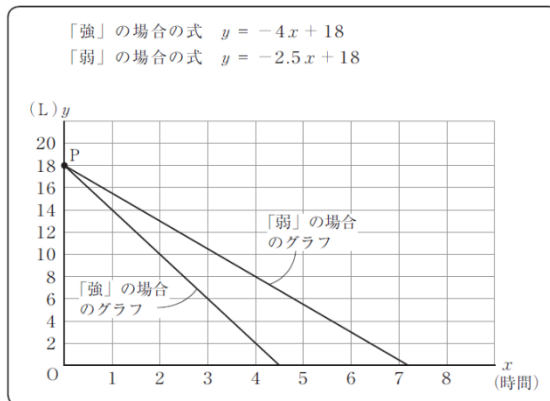
説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18 Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えることにしました。そのために、18 Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

ストーブの使用時間と灯油の残量



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

【正答例】 8 (2)

<アを選択した場合>

- ・ 「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

<イを選択した場合>

- ・ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求める。
- ・ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y 座標が0のときの2点間の距離を読み取る。

	正答率
山口県	15.6%
全国	17.1%

結果を踏まえて

【誤答の状況とそれに応じた解決の方法】

特徴的な誤答

アを選んだ生徒

○「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$ の連立方程式を解き、 x 、 y の値を求める。



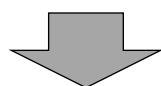
→ 数式の処理方法に関する知識はあるものの、問いに即した適切な解き方を具体的にイメージすることができていない。

イを選んだ生徒

○「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフそれぞれの x 軸との交点の x 座標を求めると、およそ何時間になるか求められる。



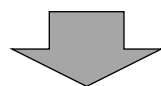
→ グラフ上の灯油を使い切る箇所について読み取ることはできているが、使用時間の違いについて着目することができていない。



このような誤答の子どもは…

基本的な数式の処理方法や一次関数のグラフの特徴についての理解はできている。

日常的な事象を照らし合わせて、問いや答えの在り方をイメージすることに課題が見られる。また、解決するための構想や方策を具体的に見出し、問題解決の方法を適切に表現することに課題がある。



課題解決のための手立て

【授業改善の方策】

関数領域を含む全ての領域における課題解決学習の際には、解決するために必要となる知識や技能等は何か、それをどのように活用するのか、どういう手順で解決するのかについて考察する場面を設定することと、考察したことを数学的な表現を用いて伝え合う場面を設定することが求められる。

【学校・家庭・地域の連携】

家庭や地域においても、生徒自身がテーマや目的に応じて、解決や追究の構想を立て、それを実行し、評価・改善するという機会を設ける。

【課題解決に役立つやまぐちっ子学習プリント】

中学校2年 やまぐちっ子プラス 関数

3 質問調査の結果

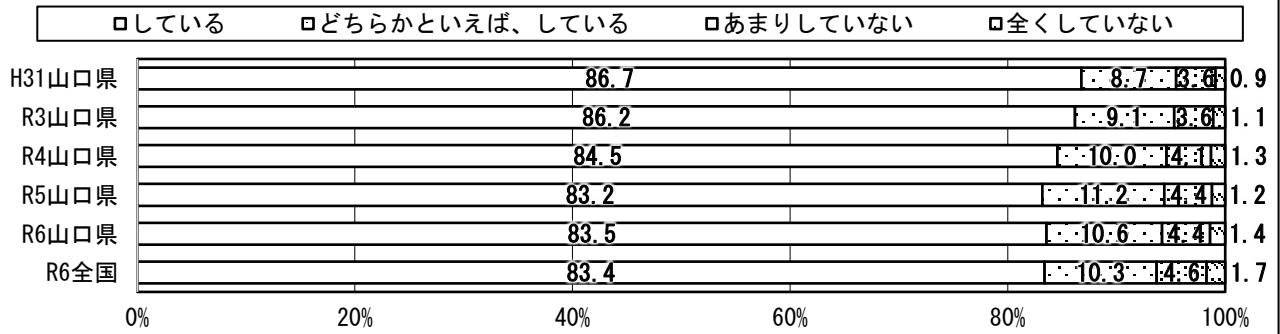
(1) 児童生徒質問

① 子どもの意識・生活習慣

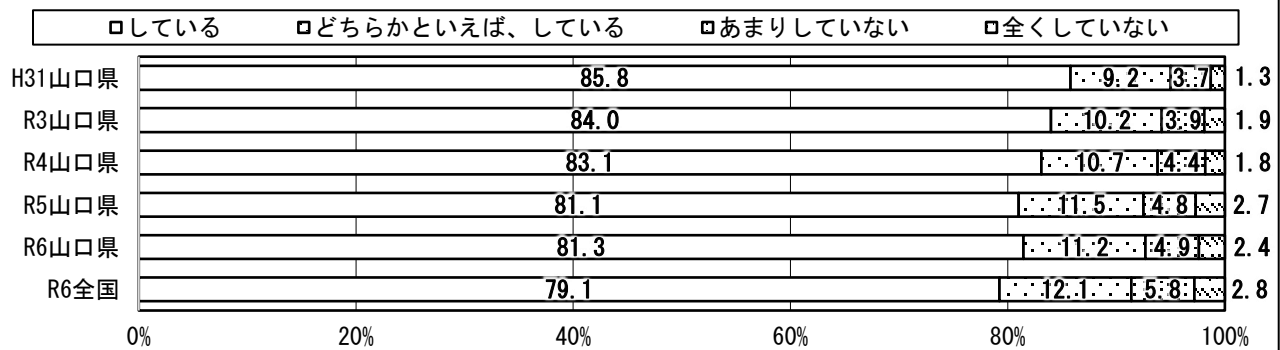
ア 朝食を毎日食べている

○ 朝食を毎日食べていると回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて若干増加しており、全国平均を上回っている。

【小学校】 (1) 朝食を毎日食べていますか



【中学校】 (1) 朝食を毎日食べていますか

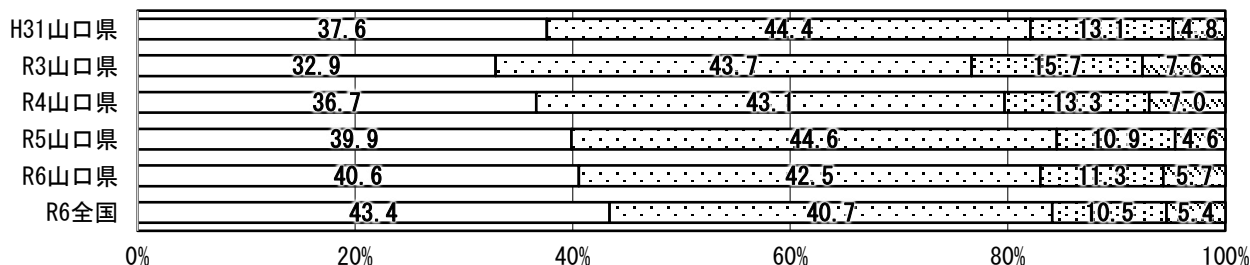


イ 自分にはよいところがあると思う

○ 自分にはよいところがあると思うかに「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて増加している。

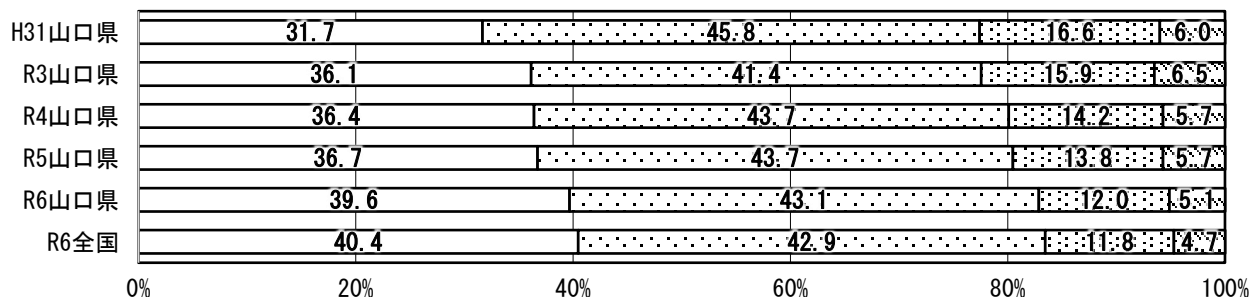
【小学校】（9）自分には、よいところがあると思いますか

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



【中学校】（9）自分には、よいところがあると思いますか

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

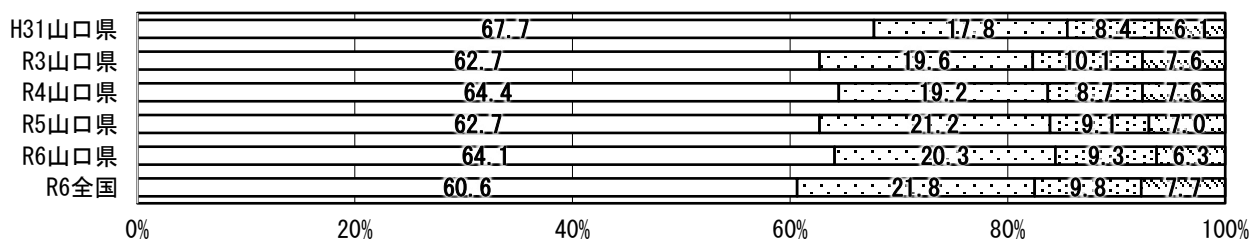


ウ 将来の夢や目標を持っている

● 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国平均を上回っているものの、全体的に減少傾向がみられる。

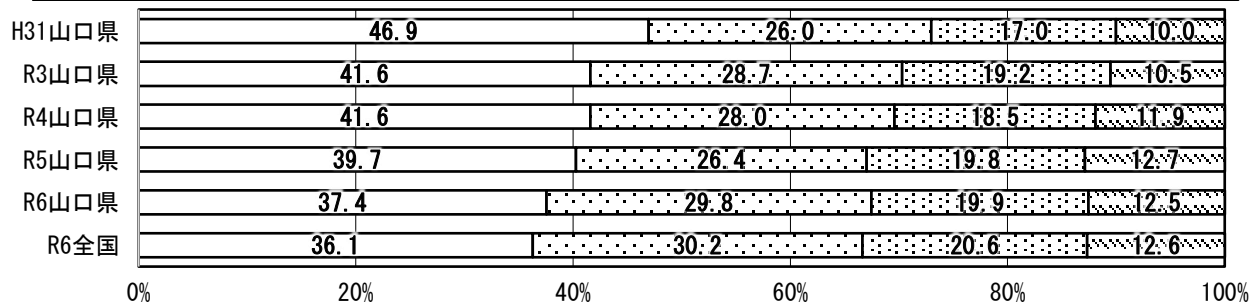
【小学校】（11）将来の夢や目標を持っていますか

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



【中学校】（11）将来の夢や目標を持っていますか

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

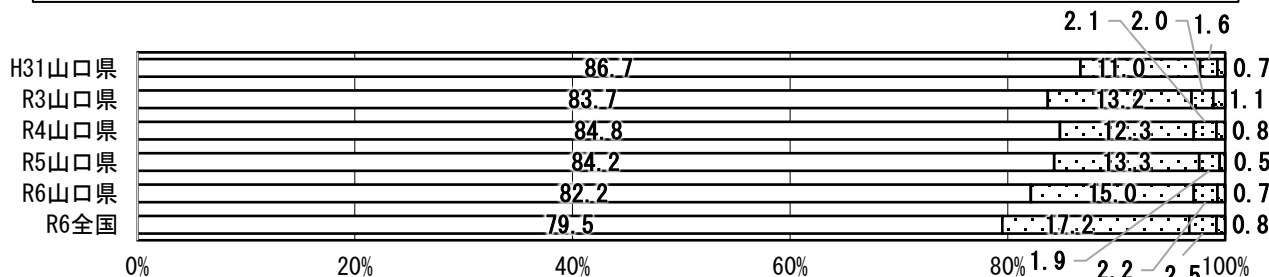


エ いじめは絶対にいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて減少している。

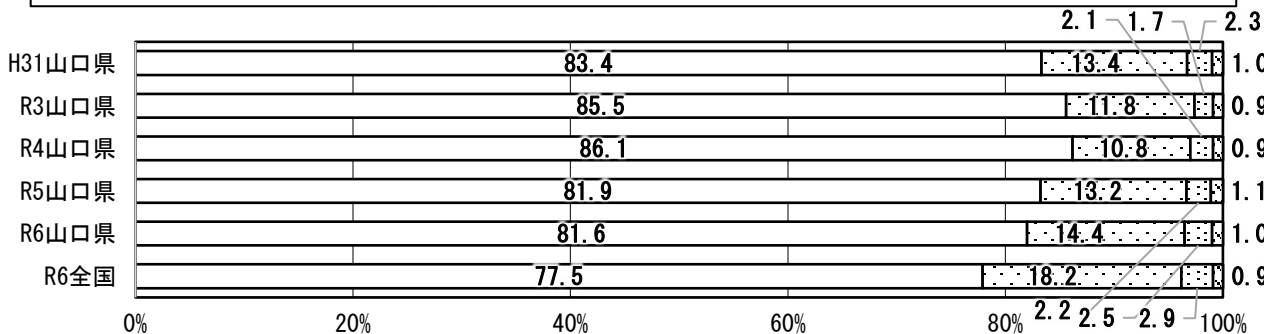
【小学校】（13）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（13）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

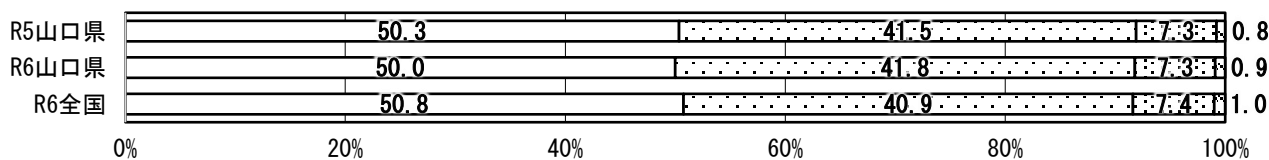


オ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある

- 幸せな気持ちになることがあると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均とほぼ同程度であり、中学校では前年度に比べて増加している。

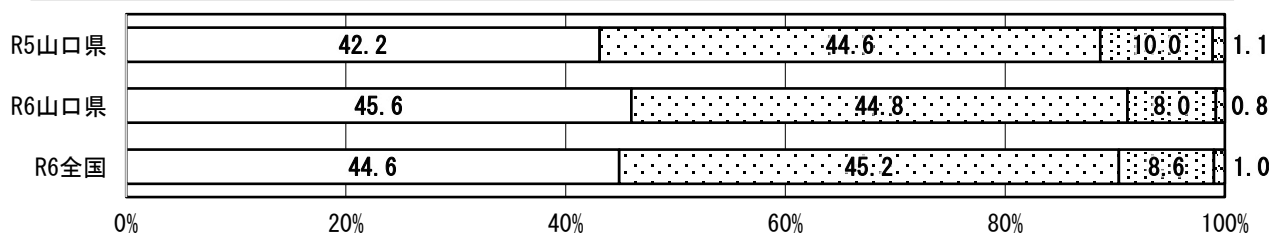
【小学校】（19）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

□よくある □ときどきある □あまりない □全くない



【中学校】（19）普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

□よくある □ときどきある □あまりない □全くない

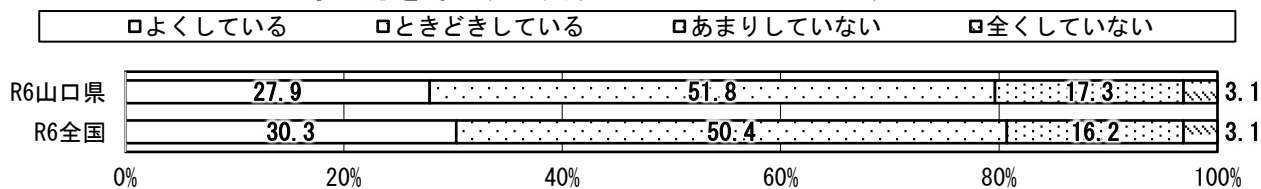


② 学習習慣・ICT

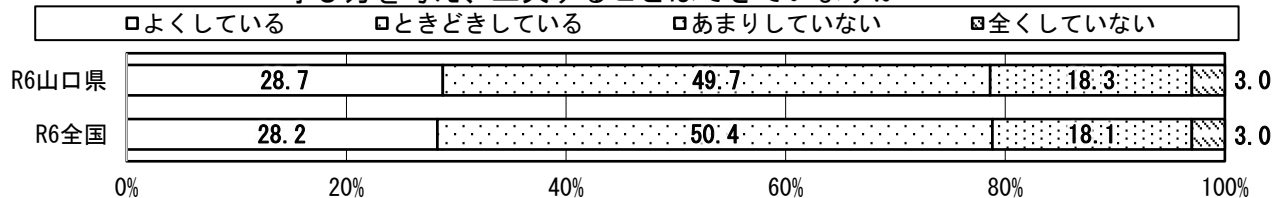
ア 自分で学び方を考え、工夫すること

- 自分で学び方を考え工夫することを「よくしている」と回答した児童生徒の割合は、全国平均とほぼ同程度であるが、小・中学校どちらも20%台である。

【小学校】（20）分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

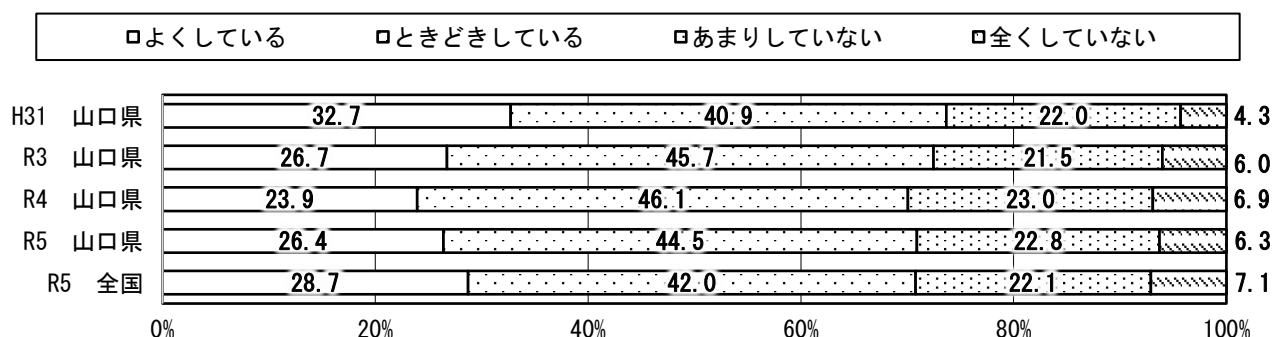


【中学校】（20）分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

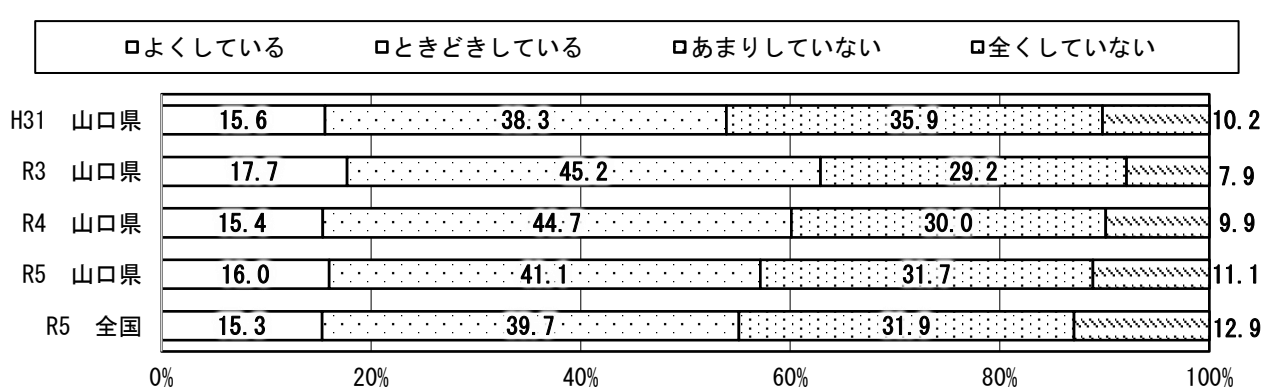


【参考】令和5年度までの経年変化

【小学校】（16）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



【中学校】（16）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

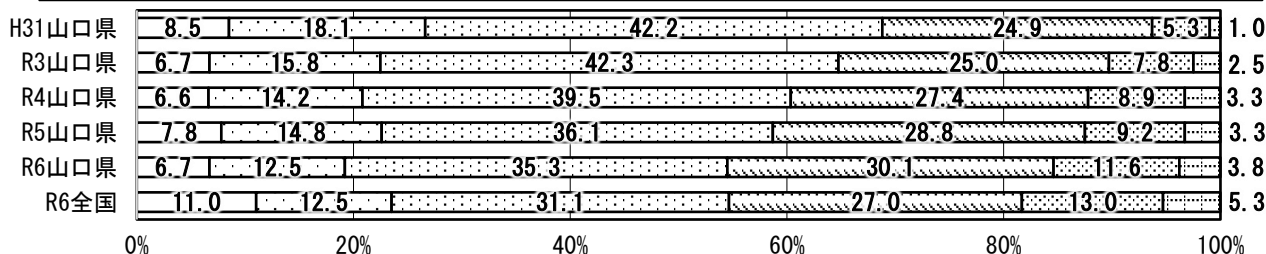


イ 平日の授業時間以外の学習時間

- 学校の授業時間以外の勉強を、平日、「全くしない」「30分より少ない」「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童生徒の割合は、増加し続けている。

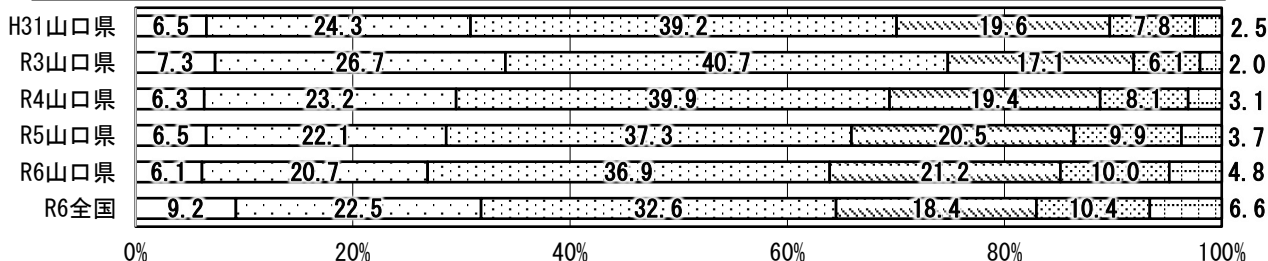
【小学校】（21）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
 30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない



【中学校】（21）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

3時間以上 2時間以上、3時間より少ない 1時間以上、2時間より少ない
 30分以上、1時間より少ない 30分より少ない 全くしない

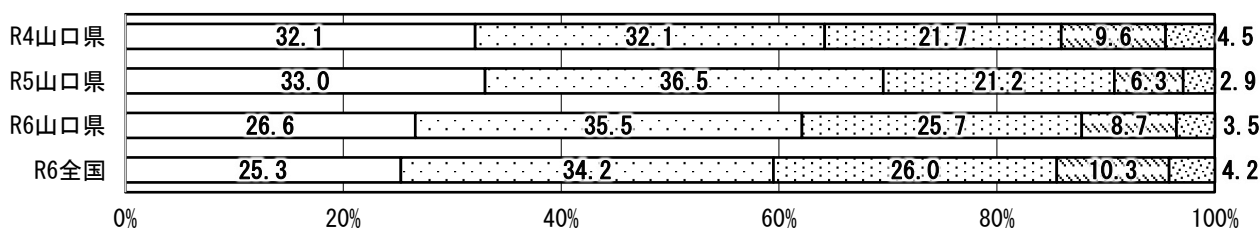


ウ コンピュータやICTをどの程度活用したか

- 前学年までに受けた授業で、PCなどのICT機器を「週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。

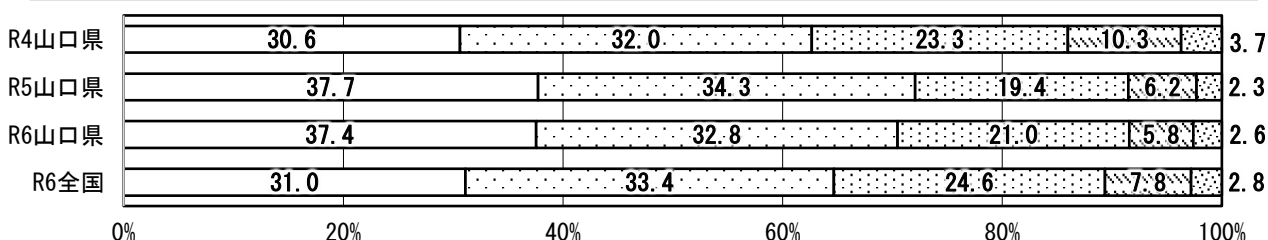
【小学校】（27）5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満



【中学校】（27）1, 2年生のとき受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

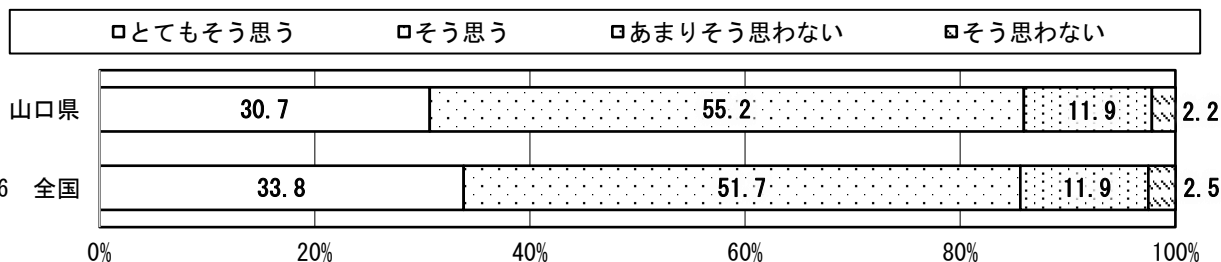
ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満



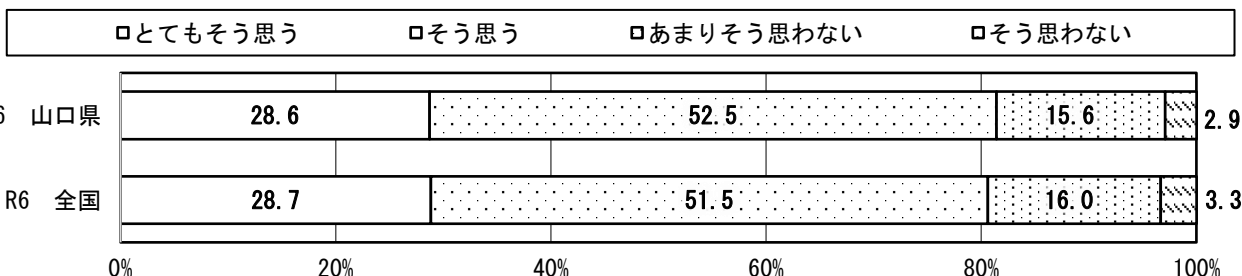
エ 学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つか

- ICT機器を活用して自分のペースで理解しながら学習を進めることができていない児童生徒が10～20%いる。

【小学校】（28-1）5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか

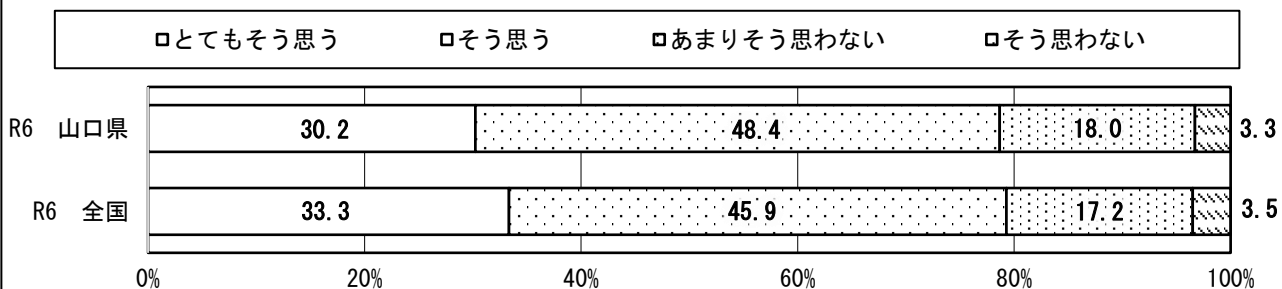


【中学校】（28-1）1, 2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか

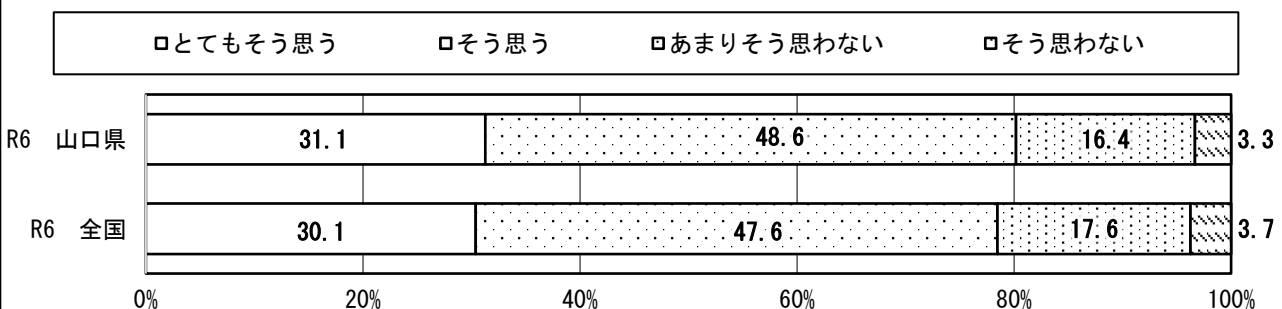


- ICT機器を活用して自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができていない児童生徒が約20%いる。

【小学校】（28-5）5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか



【中学校】（28-5）1, 2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか



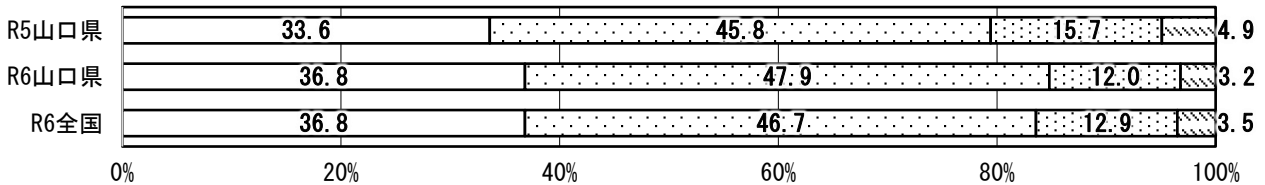
③ 地域や社会との関わり

ア 地域や社会をよくするために何かしてみたい

○ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと肯定的に回答した児童生徒の割合は、前年度に比べて増加しており、全国平均を上回っている。

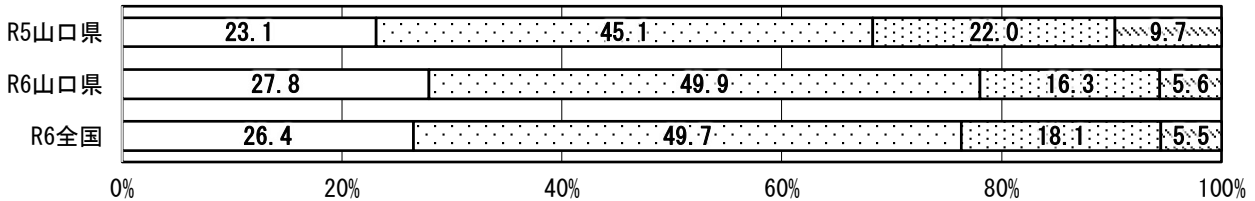
【小学校】（25）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（25）地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

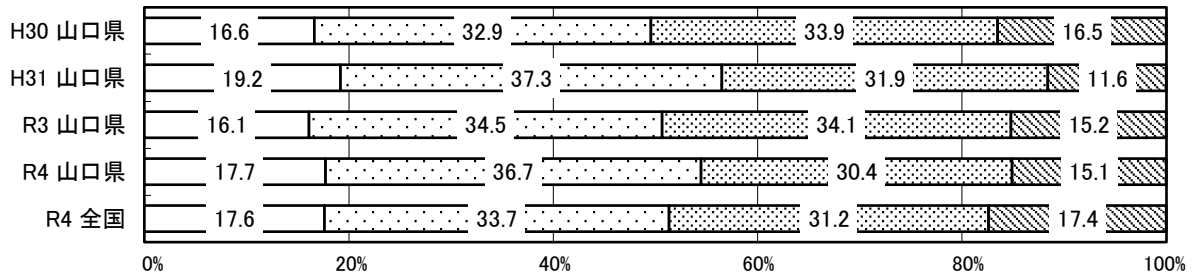
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【参考】令和4年度までの経年変化

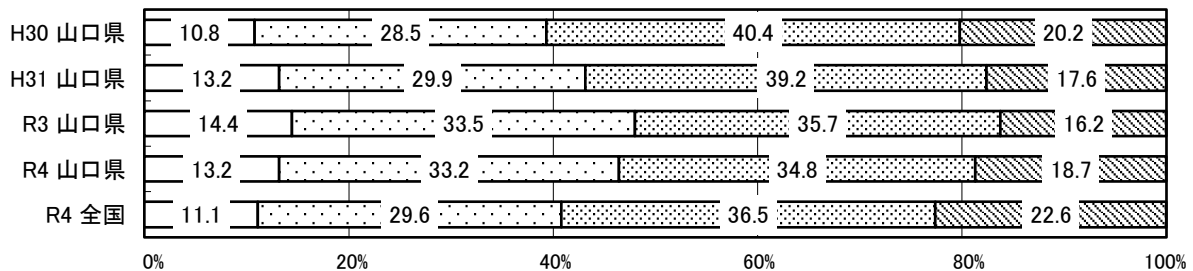
【小学校】（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】（30）地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



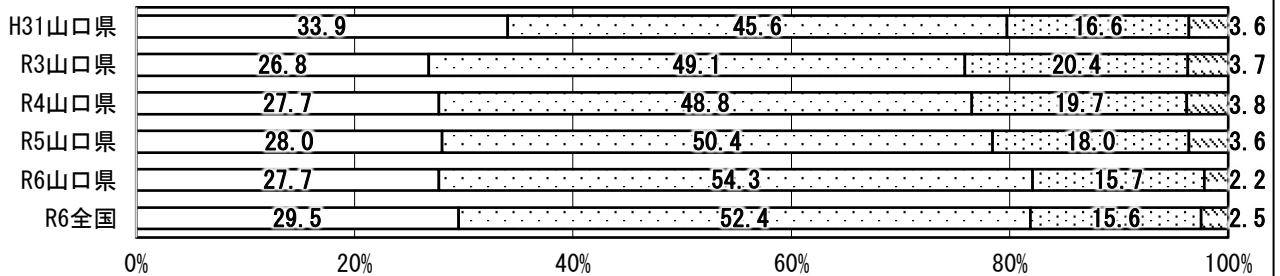
④ 学びに向かう姿勢・授業

ア 課題の解決に向けた主体的な取組

- 小学校では、授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことについて肯定的に回答した児童の割合は、全国と同程度であり、前年度より増加している。
- 中学校では、授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことについて肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均を上回っているものの、前年度に比べて減少している。

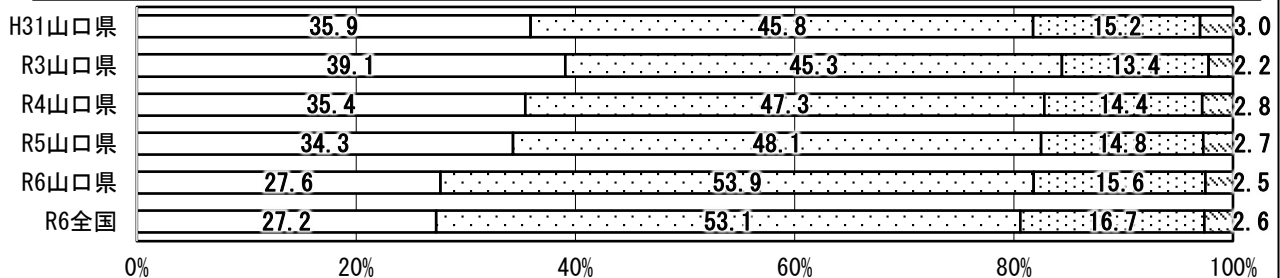
【小学校】（30）5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



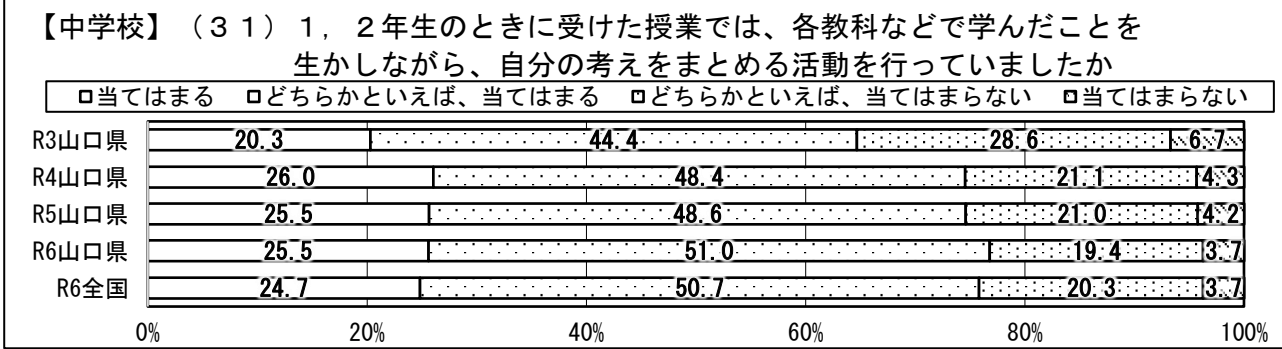
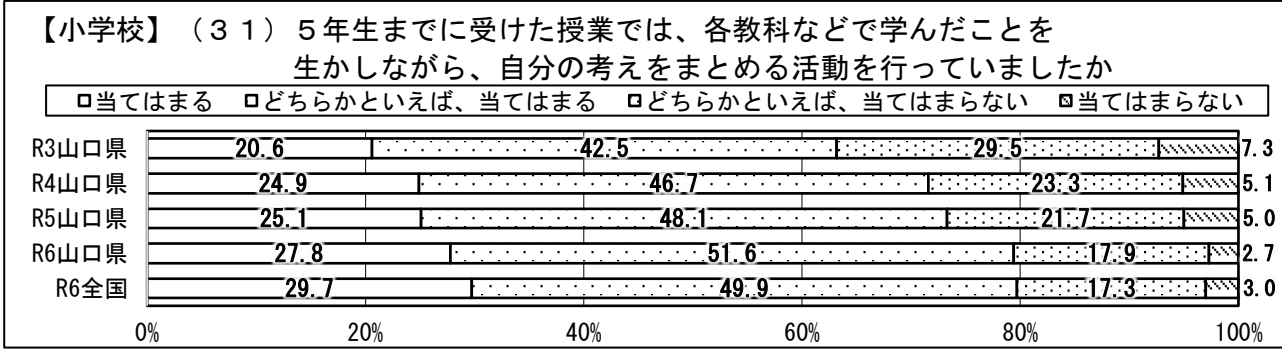
【中学校】（30）1，2年生のとき受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



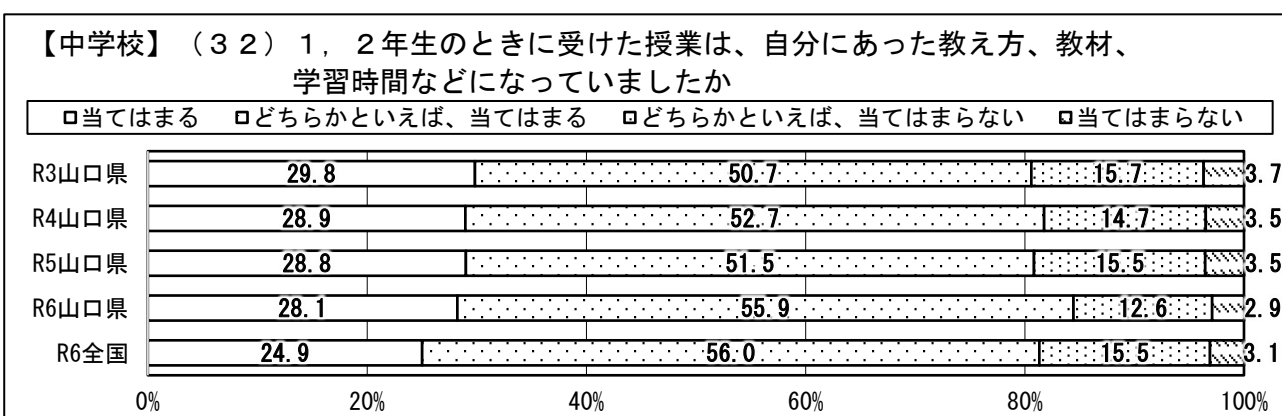
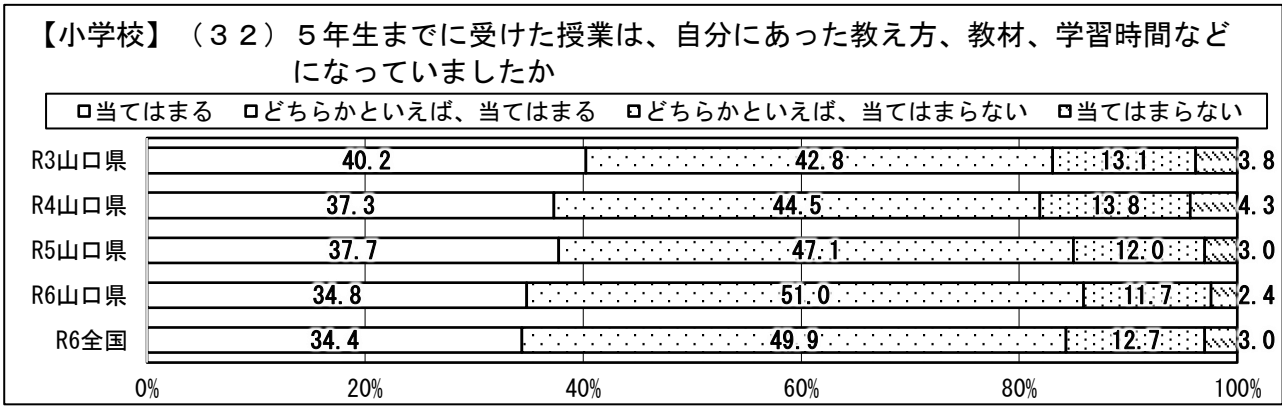
イ 各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動

○ 授業において各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた児童生徒の割合は、全国平均と同程度であるものの、前年度と比べて増加している。



ウ 学習者にあった教え方、教材、学習時間

○ 自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。

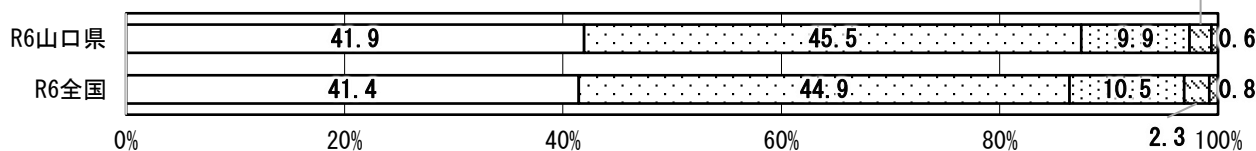


エ 話し合いで自分の考えを深めたり広げたりする

○ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。

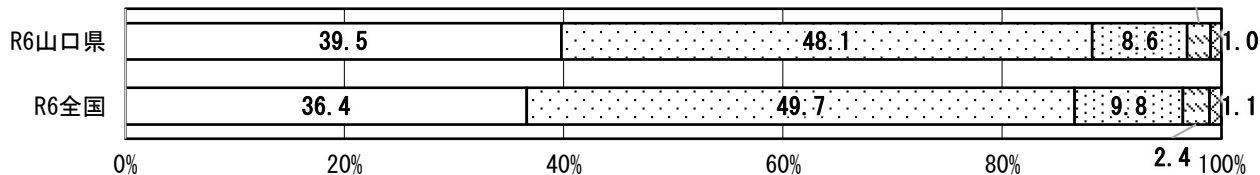
【小学校】（33）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか

- 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない
- どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない



【中学校】（33）学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか

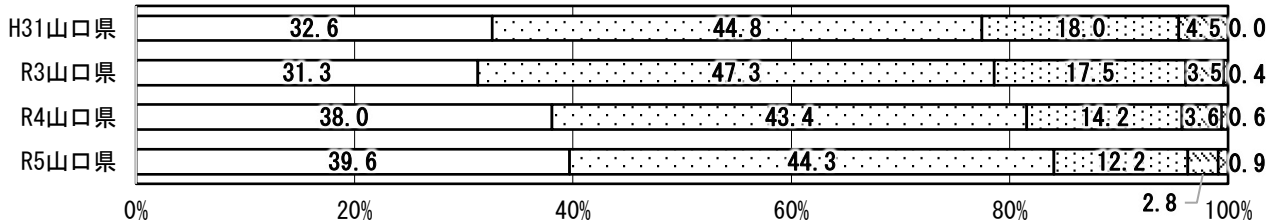
- 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない
- どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない



【参考】令和5年度までの経年変化

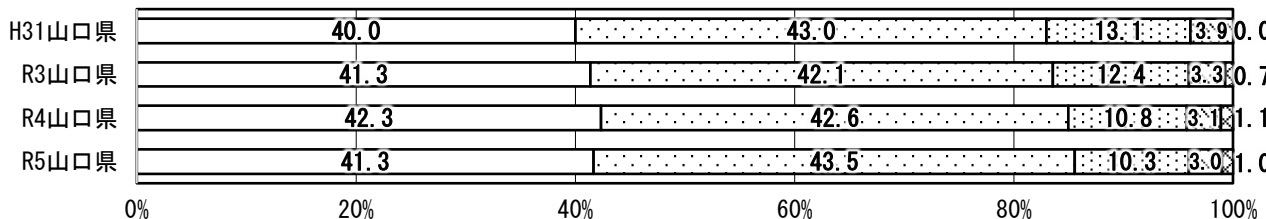
【小学校】（36）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

- 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない
- どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない



【中学校】（40）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

- 当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない
- どちらかといえば、当てはまる
 当てはまらない

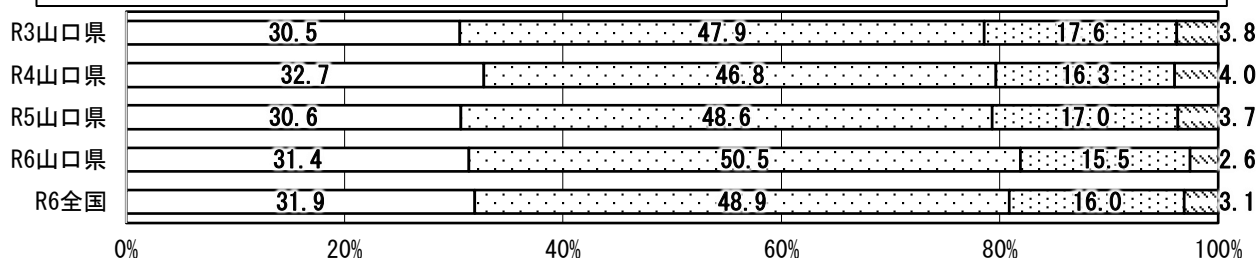


オ 学習内容を振り返り、次の学習につなげること

○ 学習した内容について見直し、次の学習につなげることができていると肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。

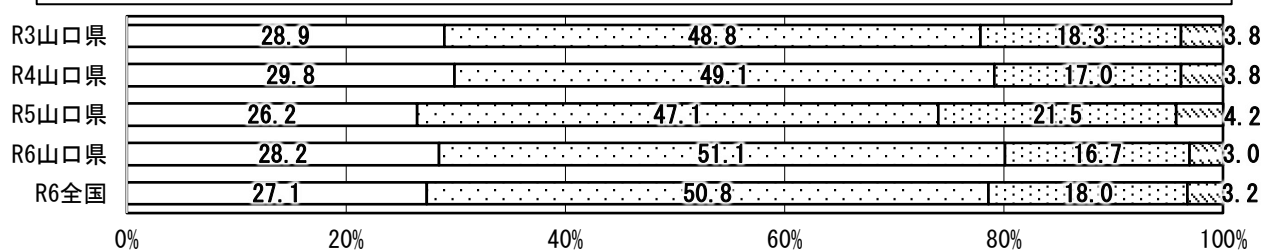
【小学校】（34）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（34）学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

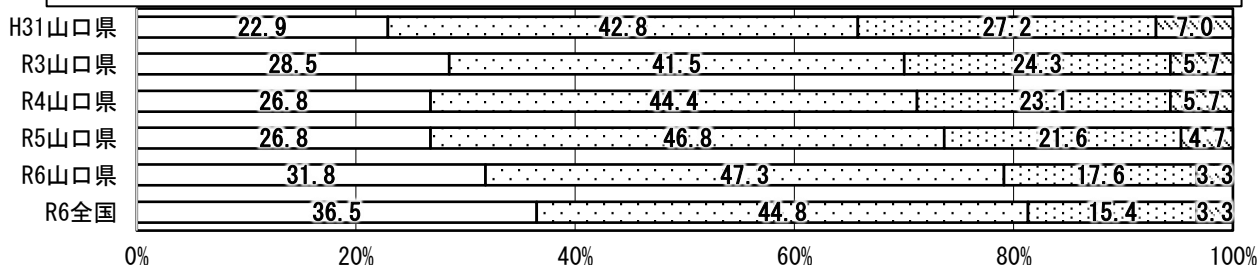


カ 総合的な学習の時間での情報収集や発表等の学習活動

- 総合的な学習の時間に、自分の課題を立てて情報収集したり、発表したりするなどの学習活動に取り組む児童生徒の割合は、前年度に比べて増加している。
- 総合的な学習の時間に、自分の課題を立てて情報収集したり、発表したりするなどの学習活動に取り組む児童の割合は、全国平均を下回っている。

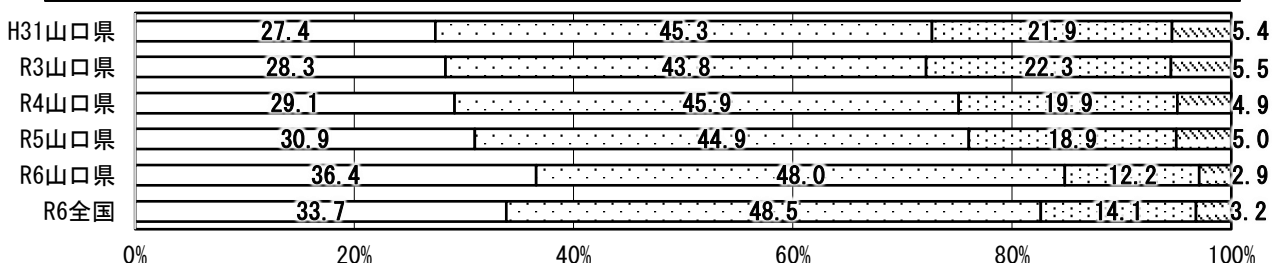
【小学校】（38）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】（38）総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

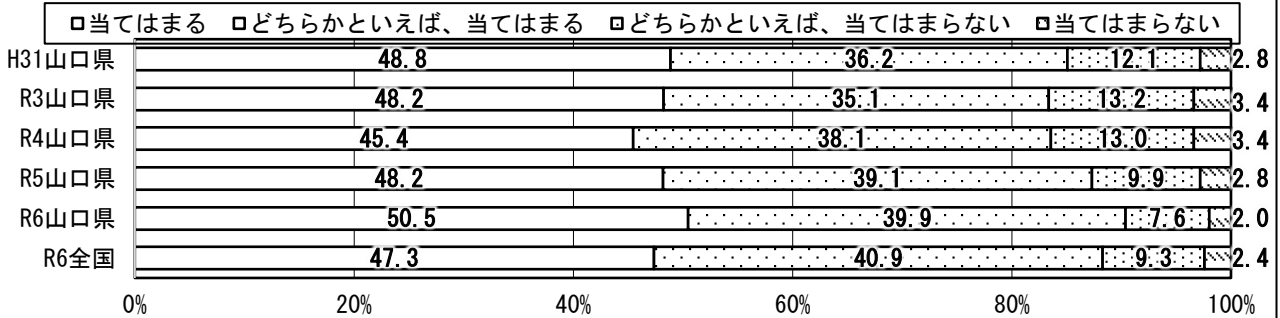
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



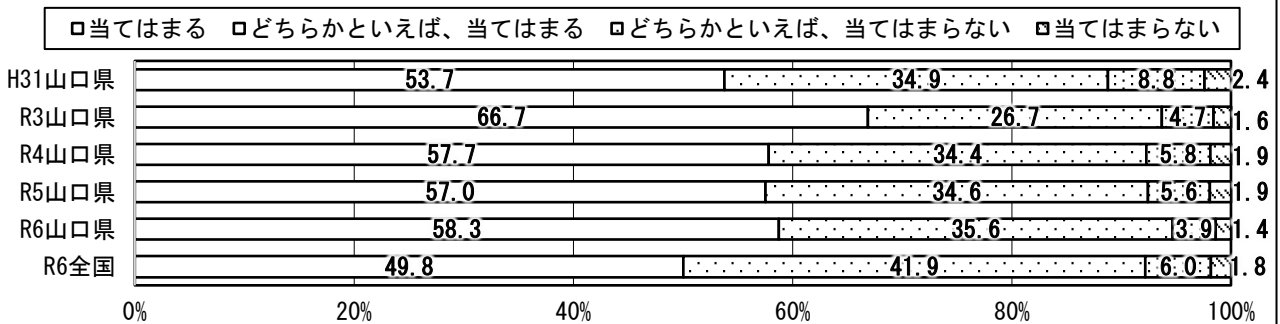
キ 道徳の時間で考えを深める、グループで話し合う

○ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（４１）道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



【中学校】（４１）道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



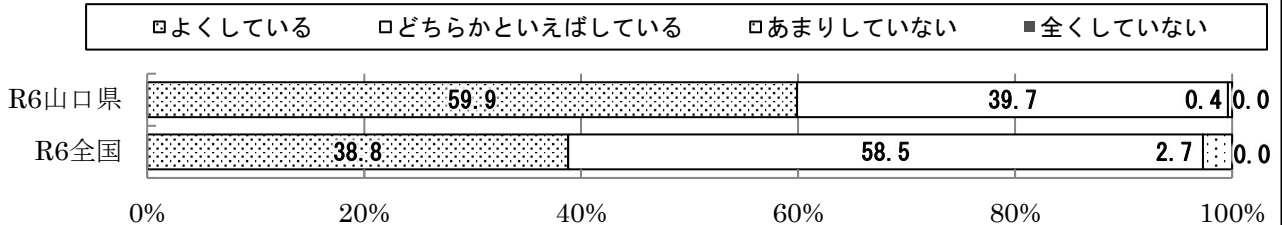
(2) 学校質問

① 学校運営

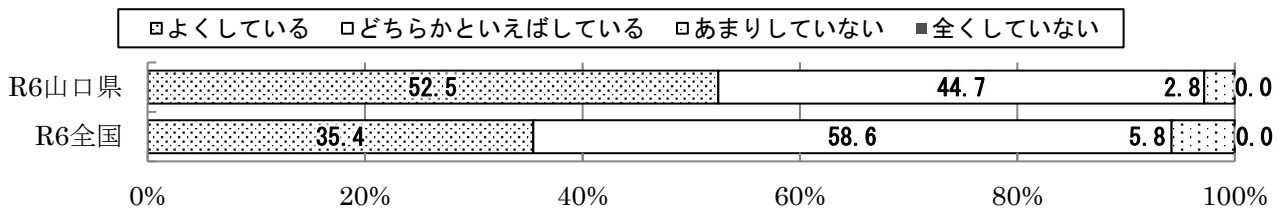
ア 各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように、教育課程表を作成

○ 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成している小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（12）指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している



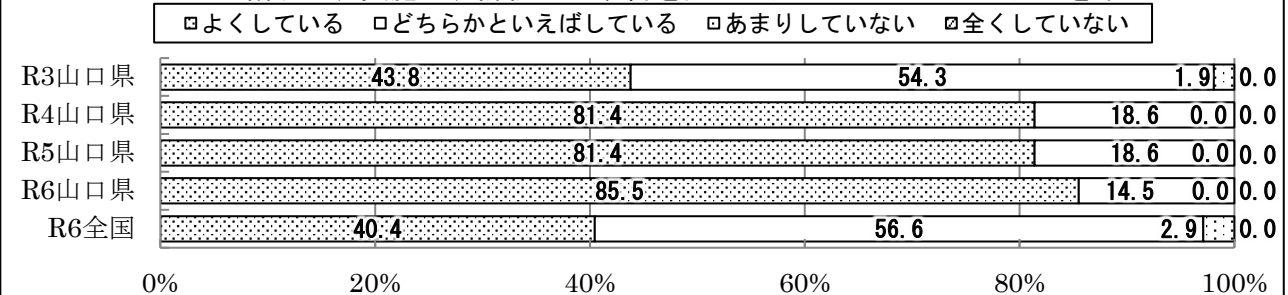
【中学校】（12）指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している



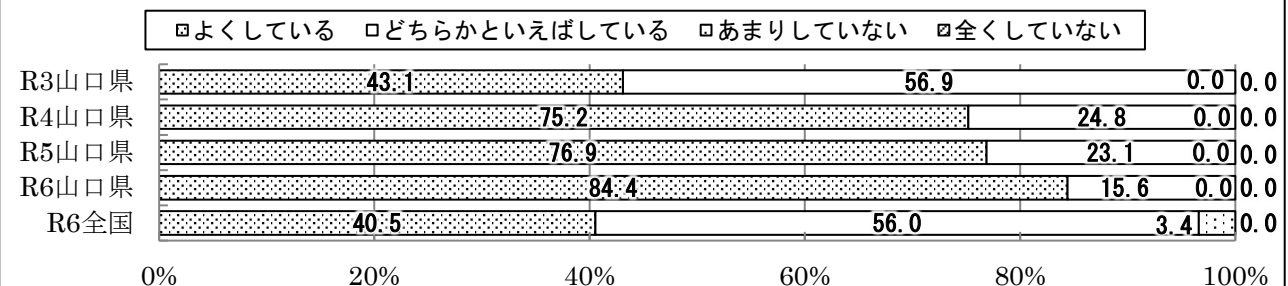
イ 子どもの姿や地域に関するデータ等に基づいたPDCAサイクルの確立

○ 児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している小・中学校の割合は、全国平均を上回り、前年度と比べて増加している。

【小学校】（13）児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



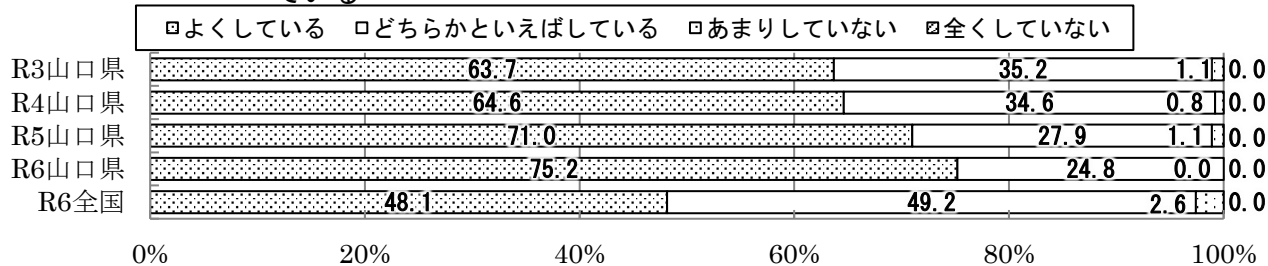
【中学校】（13）生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



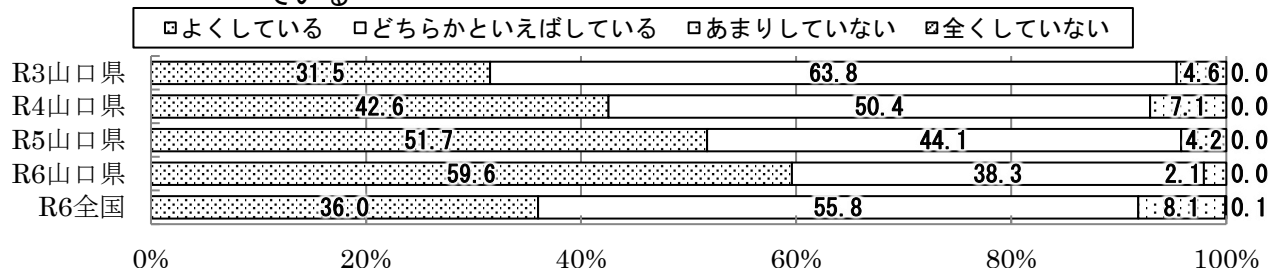
ウ 教育活動に必要な人的・物的資源等の活用

- 指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている小・中学校の割合は、全国平均を上回り、前年度と比べて増加している。

【小学校】（１４）指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている



【中学校】（１４）指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

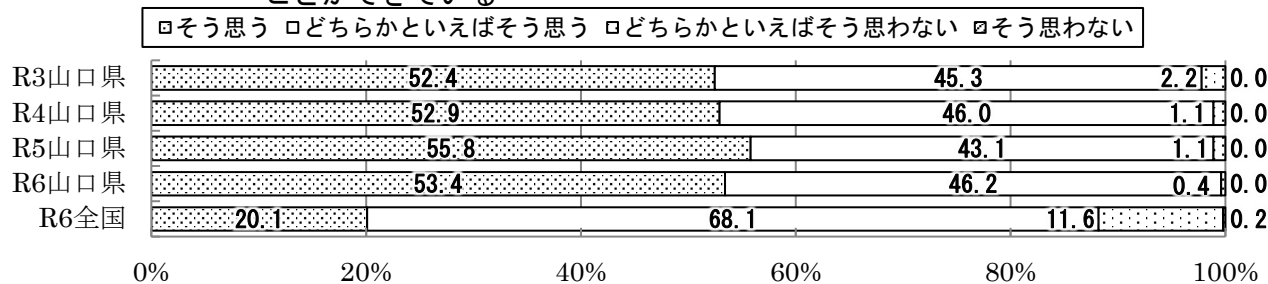


② 学習指導

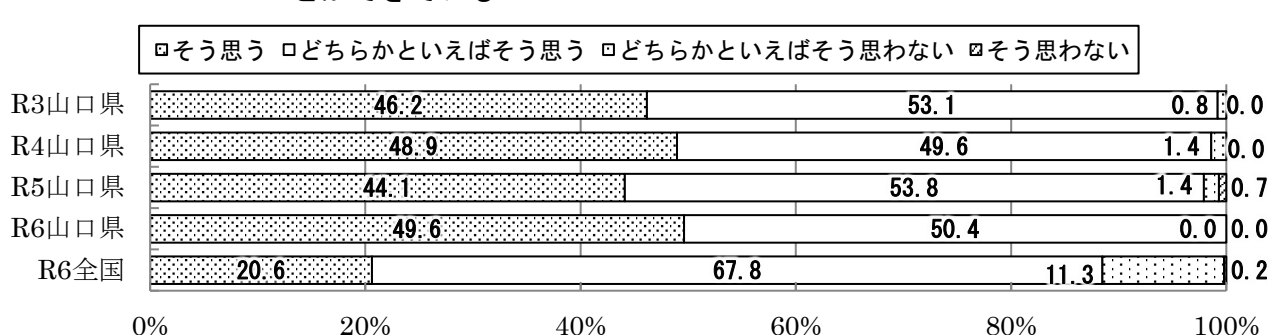
ア 自分で考え、自分から取り組む姿勢（授業での課題解決）

- 授業で課題の解決に向けて、児童生徒が自分で考え、自分から取り組むことができる小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（２５）児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

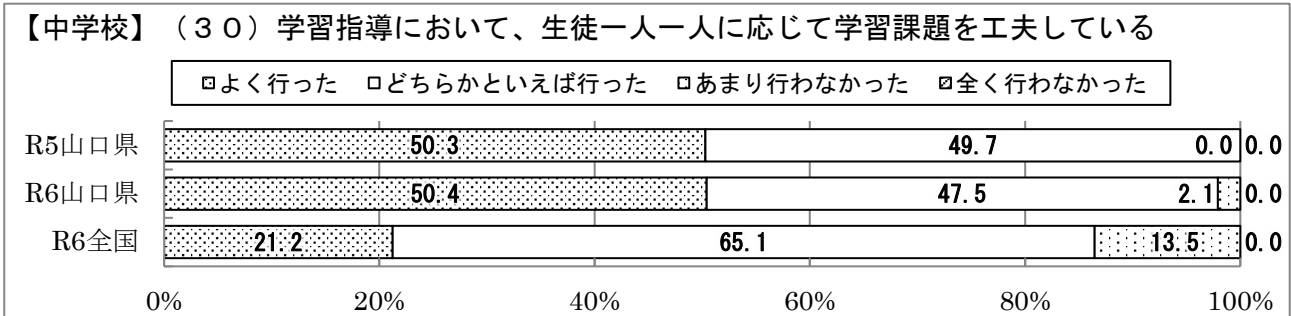
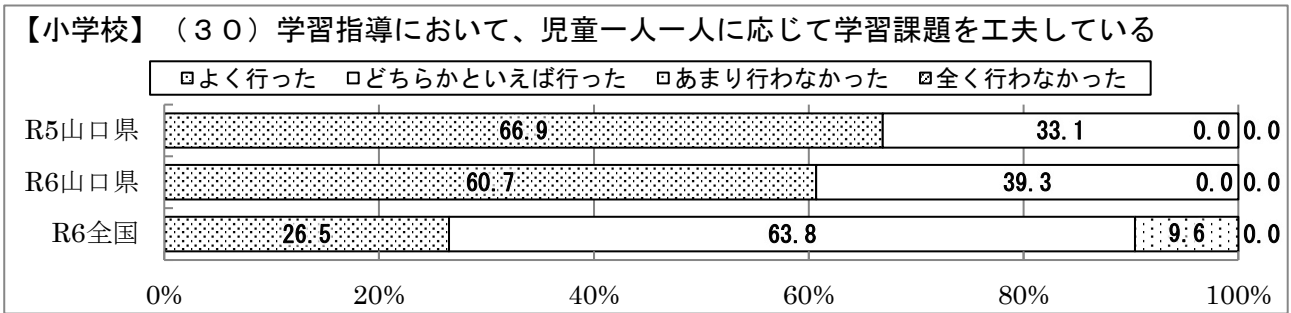


【中学校】（２５）生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている



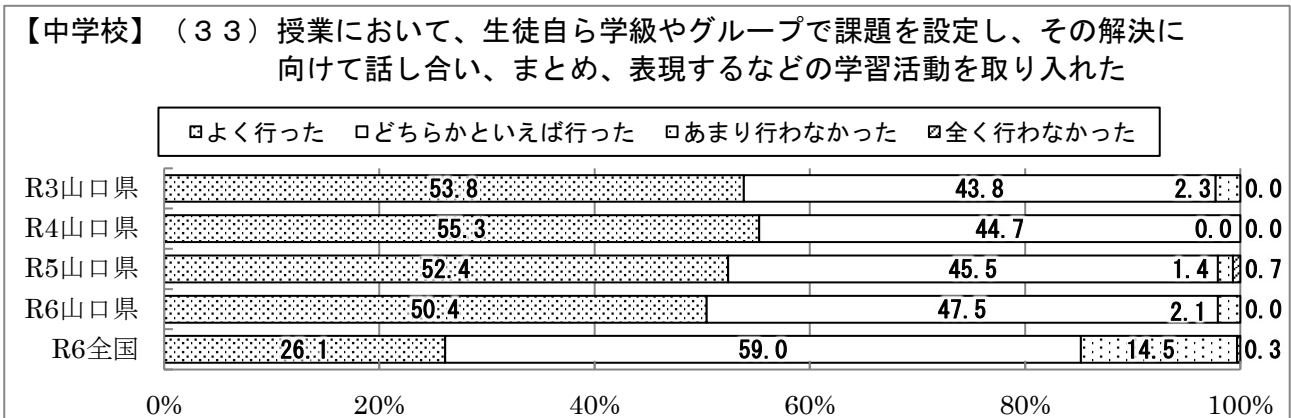
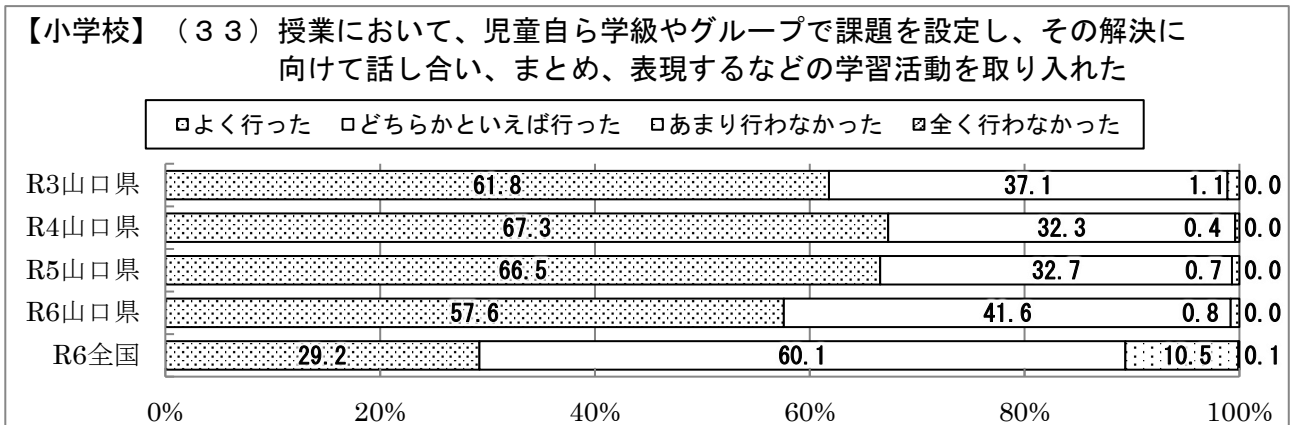
イ 学習指導における個に応じた学習課題の工夫

○ 学習指導において、児童生徒一人一人に応じた学習課題を工夫した小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。



ウ 課題を設定し、話し合い、まとめ、表現する学習活動

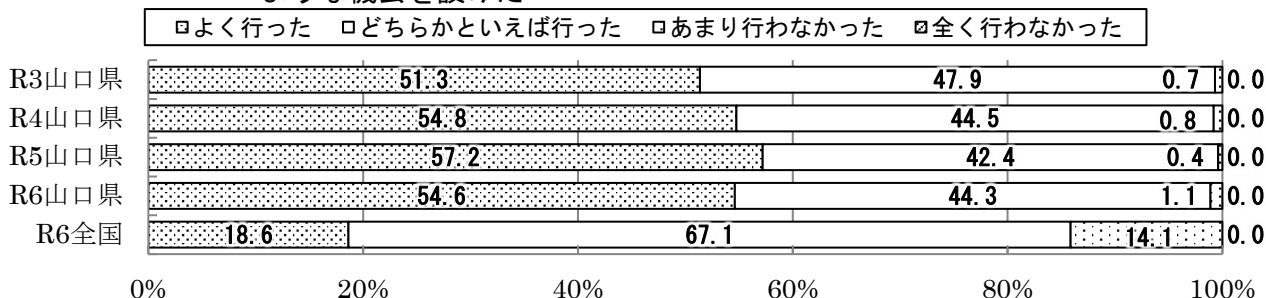
○ 授業において、児童生徒が自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。



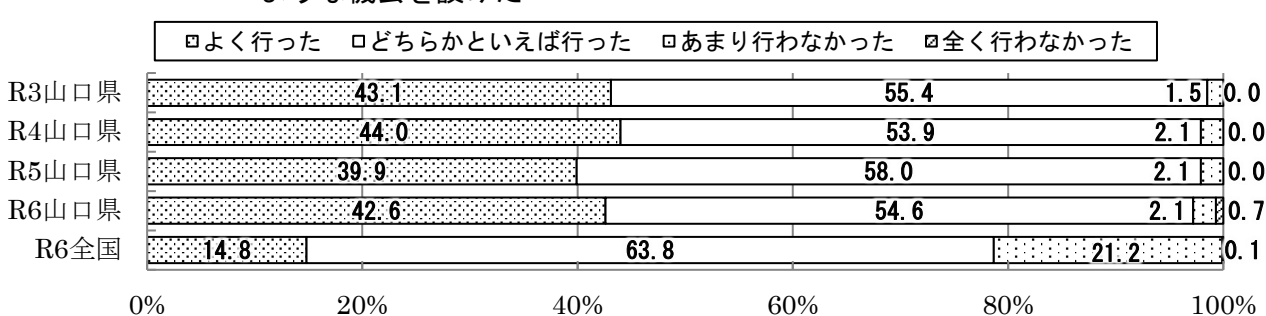
エ 各教科等で身に付けたことを課題解決に生かす機会の設定

○ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（35）各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



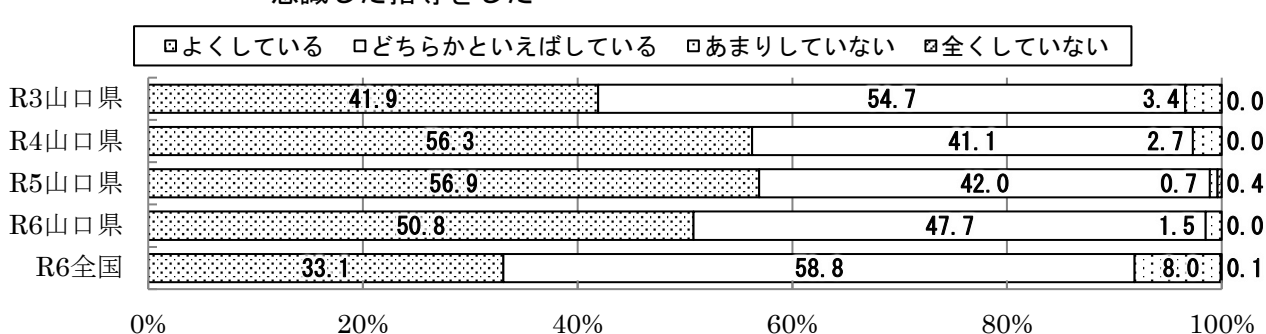
【中学校】（35）各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた



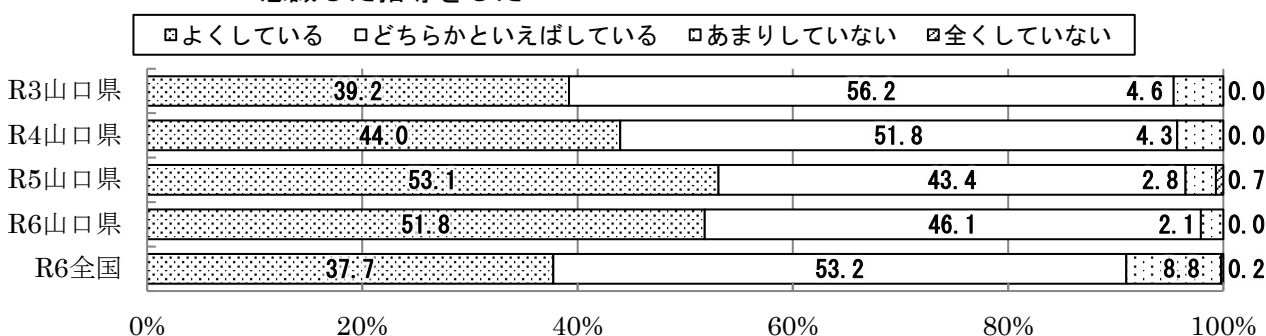
オ 総合的な学習の時間における指導

○ 総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（36）総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした



【中学校】（36）総合的な学習の時間に、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした

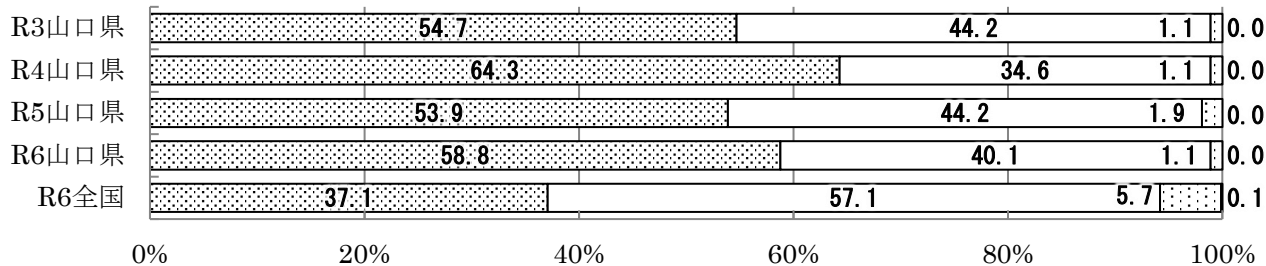


カ よりよい学級生活のために話し合い、合意形成する指導

○ 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する指導を行っている小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

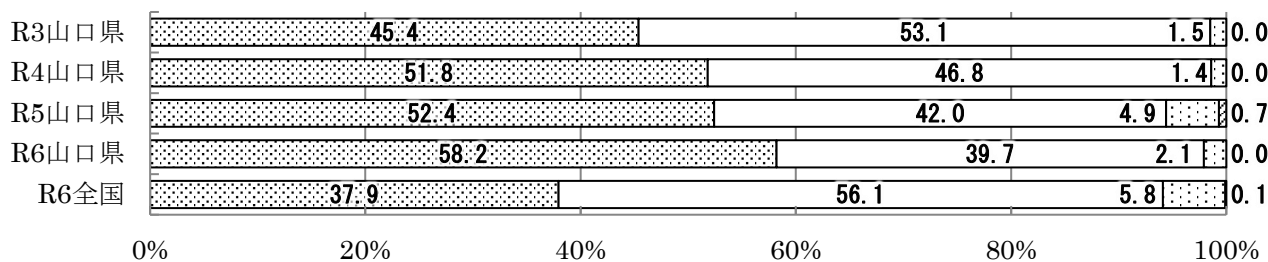
【小学校】（37）学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する指導を行っている

□よくしている □どちらかといえばしている □あまりしていない □全くしていない



【中学校】（37）学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成する指導を行っている

□よくしている □どちらかといえばしている □あまりしていない □全くしていない

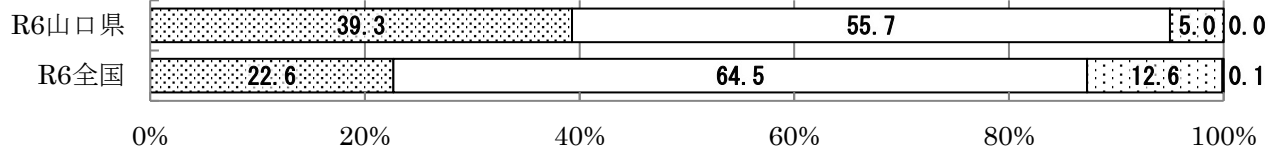


キ 学習評価の妥当性や信頼性

○ 学習評価について明確化・共有化した上で、組織的かつ計画的な取り組みをした小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

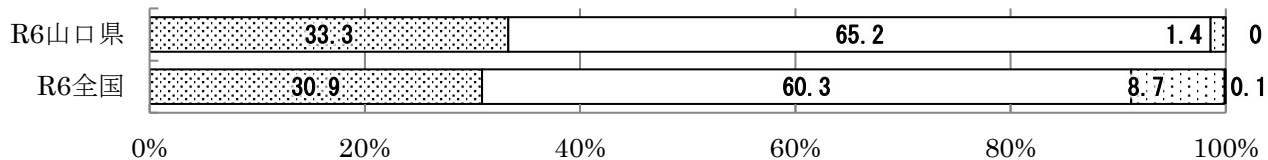
【小学校】（40）創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や強化等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をする

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



【中学校】（40）創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や強化等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をする

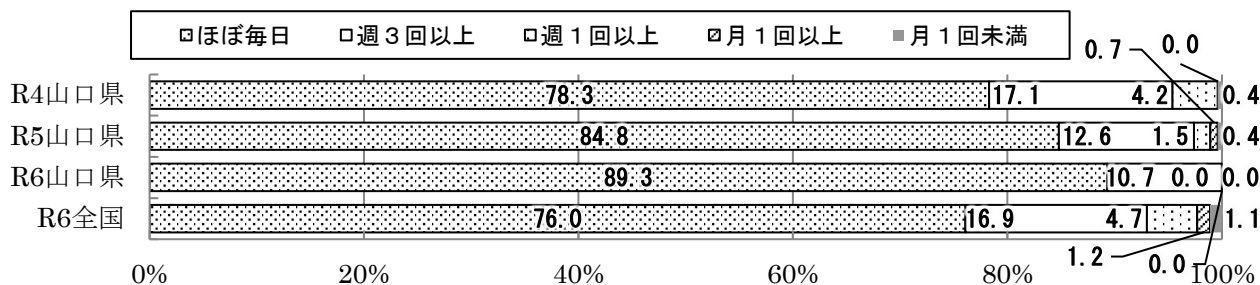
□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行わなかった □全く行わなかった



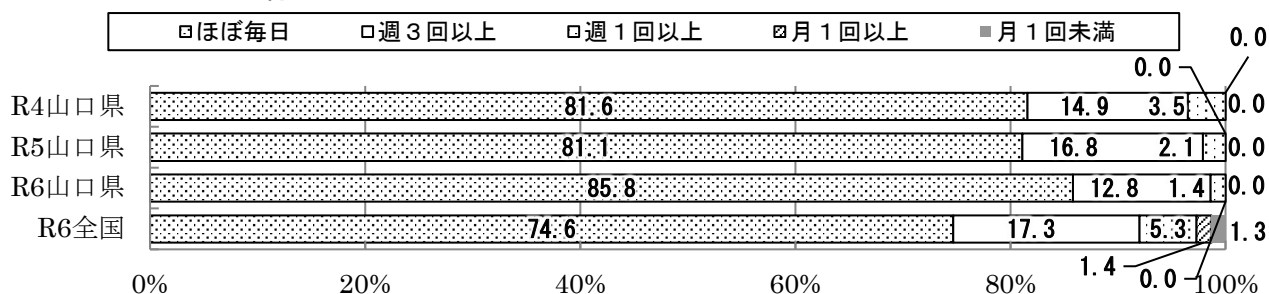
ク 大型提示装置等のICT機器を活用した授業

○ 教員が大型提示装置等のICT機器を活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行った、と回答した小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（53）教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



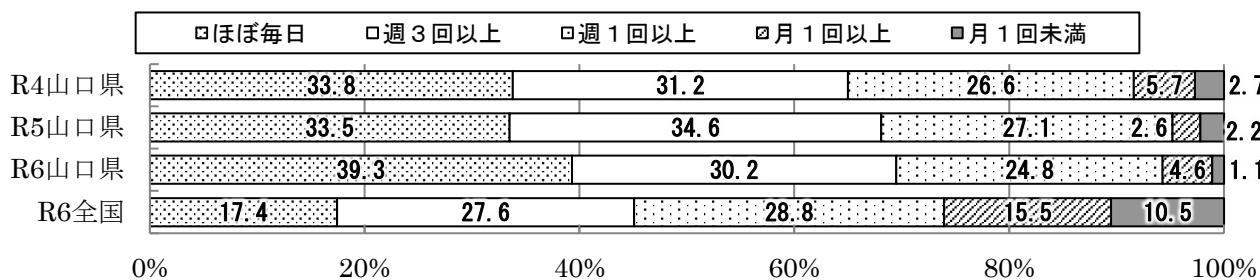
【中学校】（57）教員が大型提示装置等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



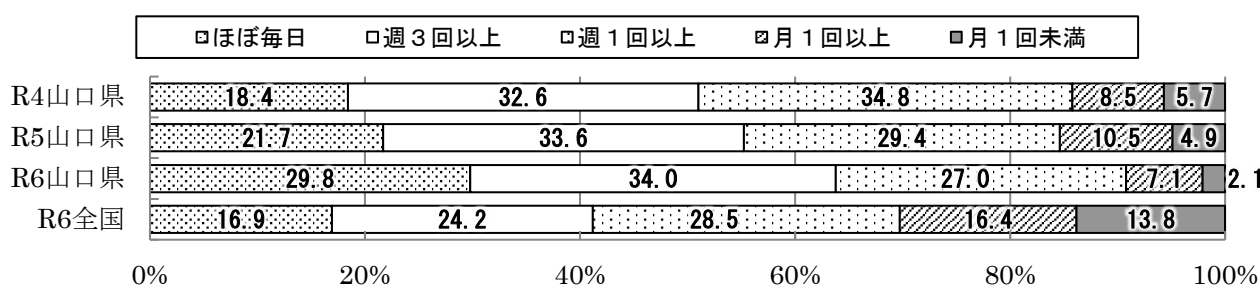
ケ ICT機器を活用した児童生徒同士のやりとり

○ 児童生徒がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している、と回答した小中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（60）【児童におけるICT機器の使用状況】児童同士がやりとりする場面



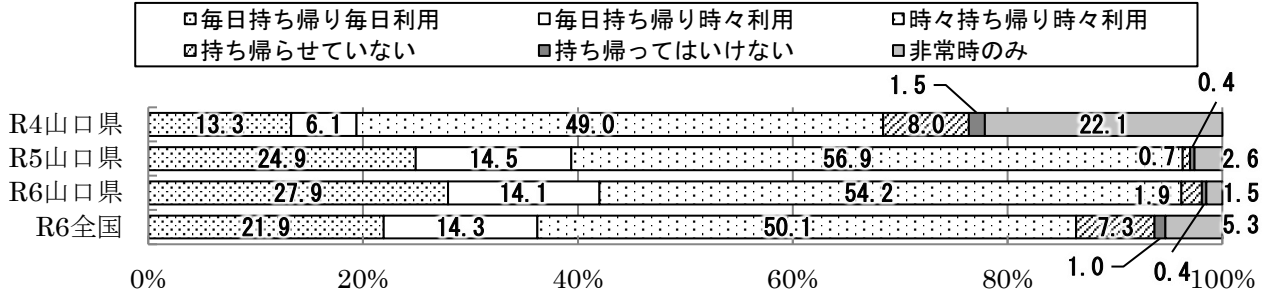
【中学校】（64）【生徒におけるICT機器の使用状況】生徒同士がやりとりする場面



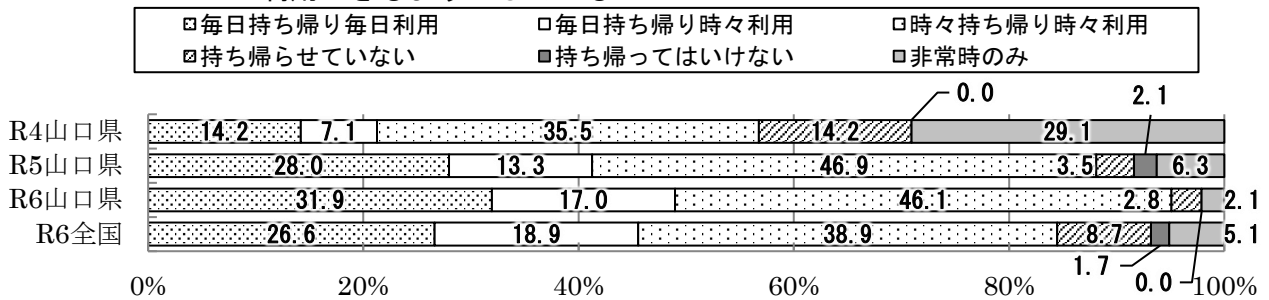
コ 一人一台端末の家庭での利用

○ 配備されたPC・タブレットなどの端末を毎日家庭に持ち帰り毎日利用している、と回答した小・中学校の割合は、前年度に比べて増加しており、全国平均を上回っている。

【小学校】（64）児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか



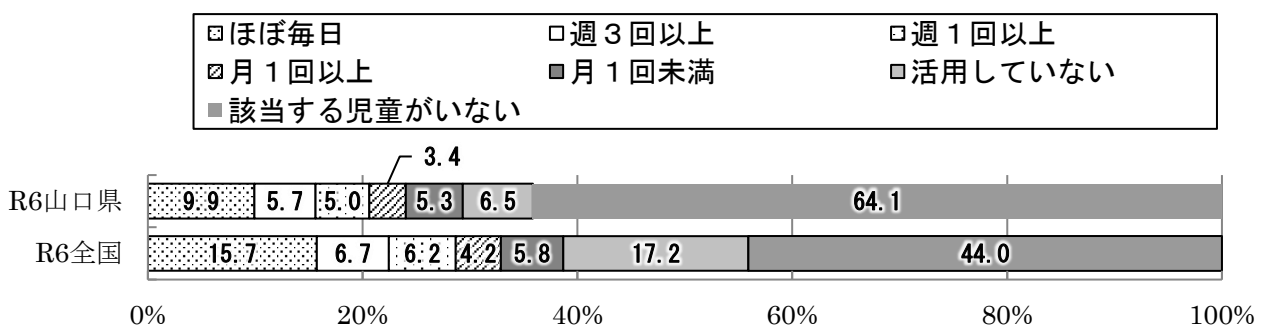
【中学校】（68）生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか



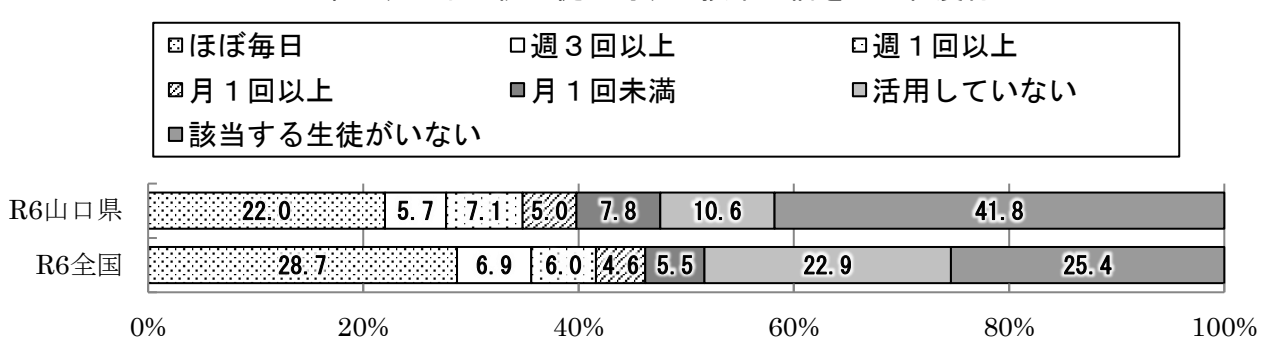
サ 不登校児童生徒に対する授業配信の取組

● 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用して、希望する不登校児童に対する授業配信を行った小中学校の割合は、全国平均を下回っている。

【小学校】（65-2）児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、希望する不登校児童に対する授業配信をどの程度行ったか



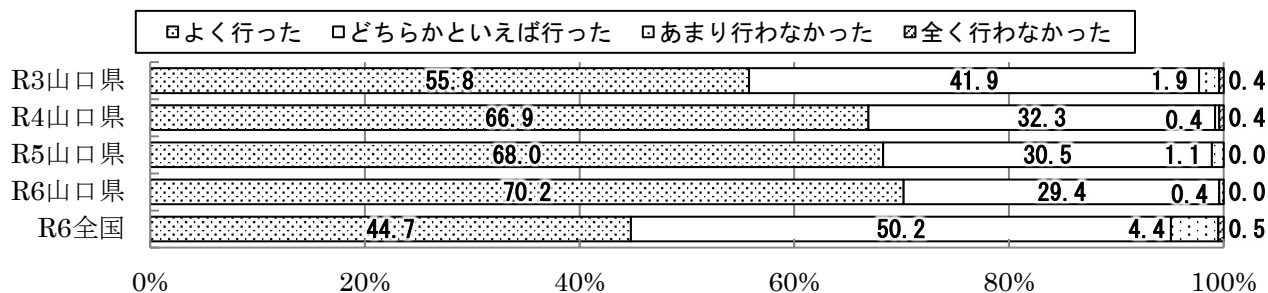
【中学校】（69-2）生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、希望する不登校生徒に対する授業配信をどの程度行ったか



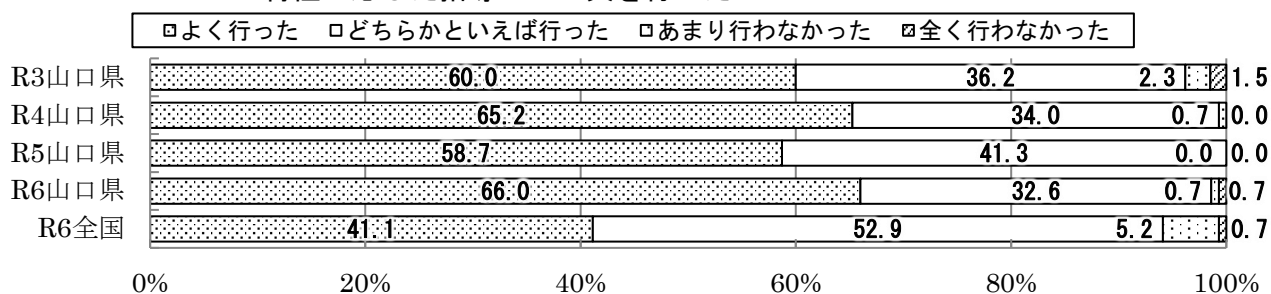
シ 特別支援教育についての理解と、児童生徒の特性に応じた指導の工夫

- 教員が特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（67）教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で児童の特性に応じた指導上の工夫を行った



【中学校】（71）教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、授業の中で生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った

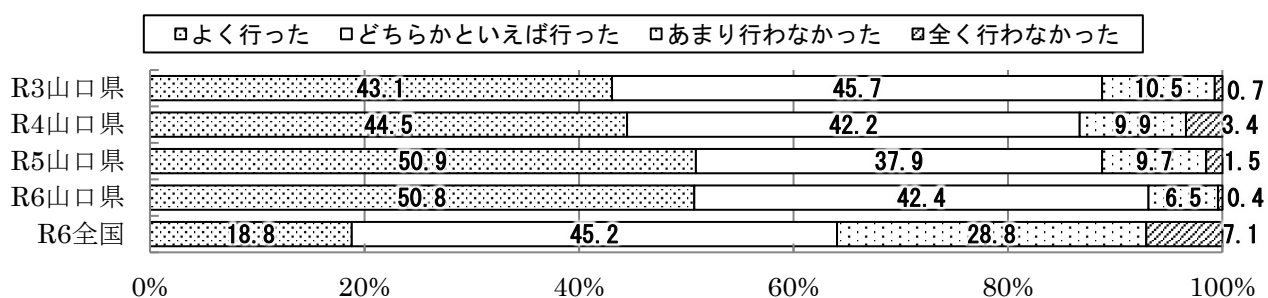


③ 学校・家庭・地域との連携

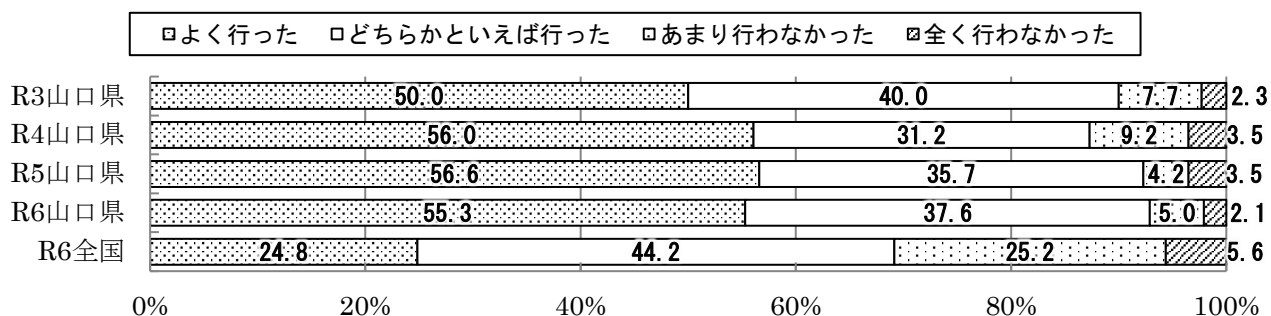
ア 教育課程に関する小・中学校共通の取組

- 近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小・中学校の割合は、全国平均を上回り、増加傾向にある。

【小学校】（68）近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った



【中学校】（72）近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った

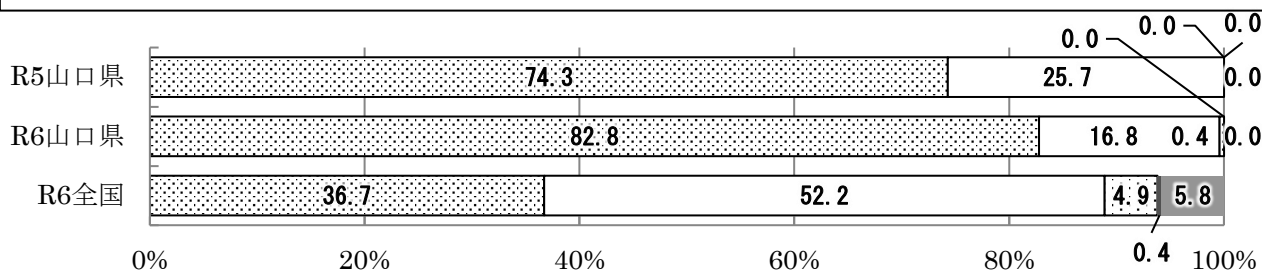


イ 学校・地域・保護者の相互理解

○ コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解が深まったと考える小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

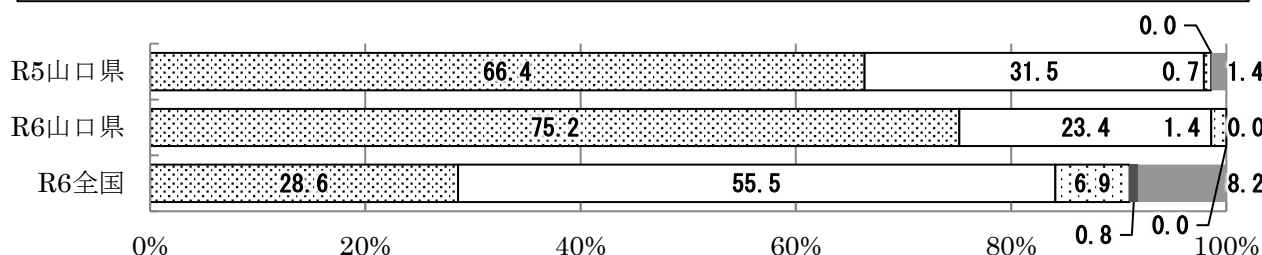
【小学校】（70）コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 取組を行わなかった



【中学校】（74）コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった

□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 取組を行わなかった

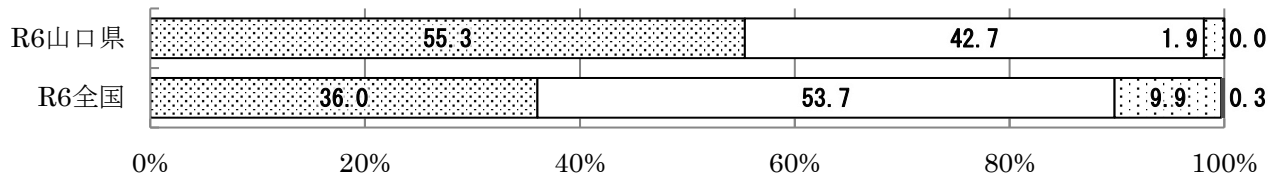


ウ 家庭学習における児童生徒による学習内容や学び方の決定などの工夫

○ 家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

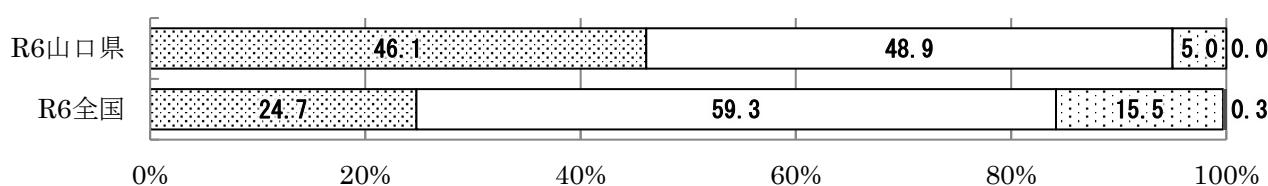
【小学校】（72）家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行う

□ よく行った □ どちらかといえば行った □ あまり行わなかった ■ 全く行わなかった



【中学校】（76）家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行う

□ よく行った □ どちらかといえば行った □ あまり行わなかった ■ 全く行わなかった

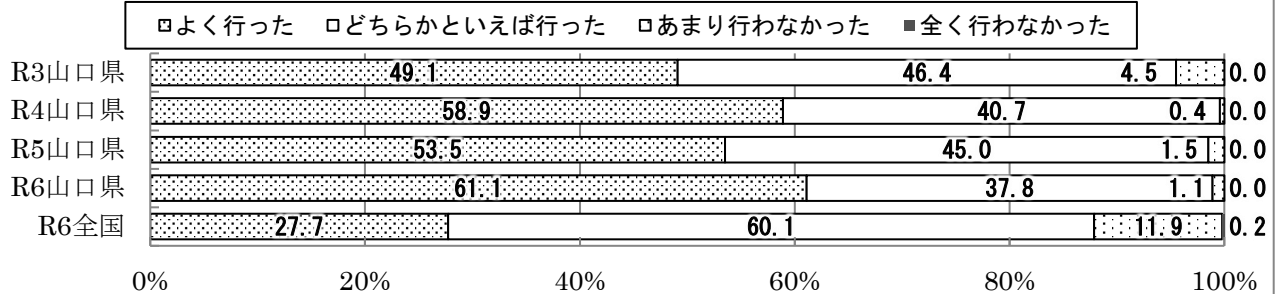


④ 家庭学習・調査結果の活用

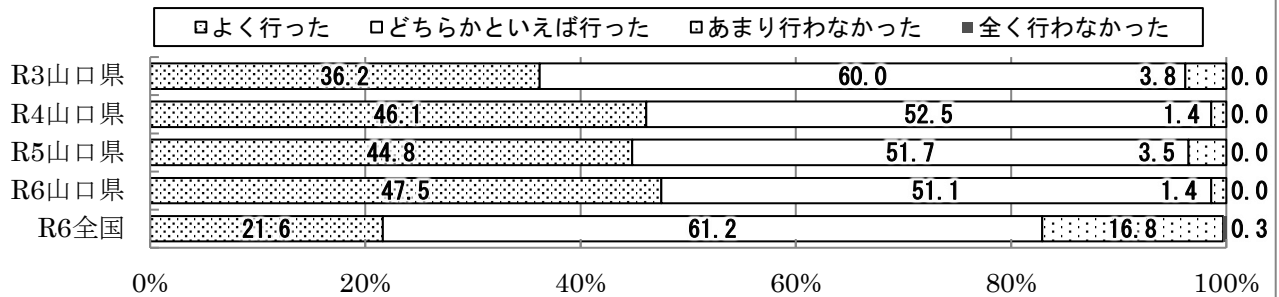
ア 児童生徒が行った家庭学習の課題について、指導改善や学習改善に生かす取組

○ 児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かす小・中学校の割合は、全国平均を上回り、前年度と比べて増加している。

【小学校】（73）学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かす



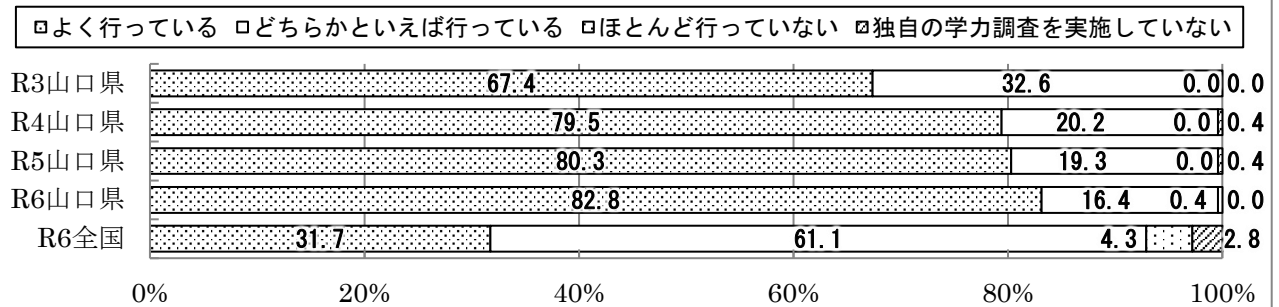
【中学校】（77）学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かす



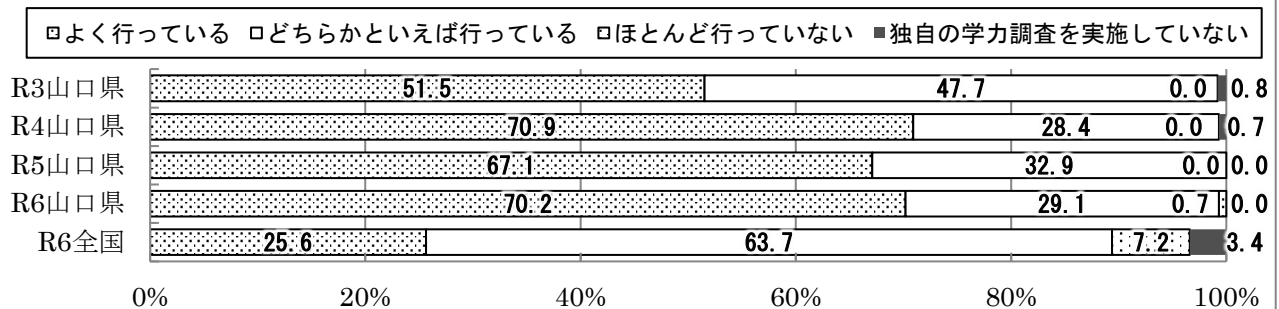
イ 全国学力・学習状況調査の問題の活用

○ 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている小・中学校の割合は、全国平均を上回っている。

【小学校】（75）全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



【中学校】（79）全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている



4 学力向上に向けた今後の取組

県教委、各市町教委、各学校が連携して、以下の二つに取り組む。

- ◆ 「やまぐち型地域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点から取組を推進するとともに、検証改善委員会から客観的評価を受け、検証改善サイクルに取り組む。
- ◆ 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上を図る。

※今回の調査結果を踏まえ、特に重点的に取り組む内容のみ記載

① 学校の組織力の充実

- ◆ 「やまぐち学習支援プログラム」等の活用を軸にした組織的な指導体制づくり
 - ・ 「やまぐち学習支援プログラム」等を活用した「課題を課題のままにしない」取組の推進
- ◆ 子どもたちの誤答に着目した課題把握と解決に向けた組織的な手立ての確立
 - ・ 誤答分析による課題の焦点化に向けた学校支援
 - ・ 子どもをつまずきを解決するための個に応じた指導の充実

② 教員の授業力の向上

- ◆ 「振り返り」に注目し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善
 - ・ 「引き出したい振り返り」に着目した授業改善の推進
 - ・ 「めあてに対して何ができるようになったか、分かるようになったか」「次は、どのようなめあてをもって学んでいきたいか」等の視点で、次の学びにつながる振り返りの充実
- ◆ 1人1台端末を活用した個別最適な学びの実現
 - ・ 中学校の家庭学習の質の向上に向けた生成AIを活用した学習支援アプリの導入

③ 学校・家庭・地域の連携力の強化

- ◆ 熟議を通じた学習習慣・生活習慣の確立
 - ・ 児童生徒が参加する学力に関する熟議の開催
- ◆ 学びに向かう力を育むためのキャリア教育の推進
 - ・ 身近な大人や先輩の生き方に触れる機会の充実